

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるあるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈祷をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は84点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。 学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であるとする。 また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであるとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。 ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目の名称通りキリスト教に重点を置き、また、西南女学院と大学の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選させていただき、講義を行った。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院についての研究者であるため、動画による3回の講義をお願いした。クラスポートフォーリオ提出8回、及びまとめレポート20点で合計100点とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優，あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間科学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考え る。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4－1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は3.9であった。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	久しぶりの対面授業、そして今年度は100周年ということもあり、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①グループワーク（GW）の円滑化とGWへのコミットメントを意識させることを目的とし、アイスブレイキングの時間を昨年度よりさらに増幅し、GWの成果を競わせるようなゲーム型の活動を導入した。 ②本セミナーの根幹を成す「書く力」養成について：講義概要作成及びミニレポート・レポート作成については一貫して、問いたて→根拠性を持った論理展開（そのための文献検索）→新規意見（理論）の提示という構造を意識させることに重点を置いた。そのために、「問いの発見と構想展開図」「レポート作成計画書」の二種類のシートを新たに作成して、活用を促した。特に「問いたて」つまりリサーチクエスションの設定は、レポート作成の起点になるので、重点を置き、講義も追加した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は77.0点であり、標準的レベル(70点以上)に達した学生は87.6%であった。昨年度より低下している要因として、最低点43点（不可学生）と60～62点の学生が複数名いたことが挙げられる。DP観点別成績は、知識理解の得点率が83.4%、関心意欲の得点率は82.5%、態度の得点率は82.4%であった。 ②学生の到達度自己評価の平均値は4.2、"知識を確認・修正・新たに得ることができた"4.3、"専門分野の課題を検討する力を得ることができた"4.1、"専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた"3.9、コミュニケーション力や表現力を高めることができた"4.2であった。 ③授業の質評価は、"レポートなどの評価基準の明確さ"4.2、"学習の範囲や課題の明確さ"4.3、"話し合う、発表するなどの機会があった"4.4、"学生の質問を受け付け答える機会があった"4.3だった。昨年度より、学習課題への理解がやや低く、自由記述の中にも「何をしたらいいかわからなかった」などの意見がみられ、引き続き、タスクの明確化が求められている。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が25.0%、課題以外に学習に取り組んだ学生が32%であった。自由記載には「他の課題で手一杯」という意見が多くみられた。 ⑤図書館利用率は9%、学術データベース利用率は93%、インターネットなどの利用率は90%であり、特に図書館利用と学術データベース利用が前年に比し著明に上昇しており、図書課による対面での体験型指導が功を奏したと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的としている。講義内容は、看護学科の学生を意識したもので、科目の位置づけとしては妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①読解力・批判的思考能力の弱さについては、学生の元来の学習力に起因する次元の問題もあり、抜本的な取り組みの構想も求められている。本年度のミニレポートの指定課題文の読解に難渋した様子が見受けられ、課題文選定についても、創意工夫が必要である。 ②例年課題となる、文献の読み方や引用文献の考え方については、教員からのフィードバックを含めた実践の蓄積が必須と考えられる。 ③問いたて→文章の構成については、シート活用により、よりイメージ化された印象であり、今後もシート形式を改善をしながら評価を続けていく。 ④講義概要シート記載→ミニレポート記載→レポート記載と、文を書く実践の繰り返し学習の効果はあるようである。自由記載からも、苦労しながらも力がついた実感を持った学生も見受けられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1年で学ぶ学修の基本スキルズを修得するという目標は、自己到達度評価、授業の質評価、そして成績からみて概ね達成できた。 5名の担当教員が、講義の前後で綿密に打ち合わせをし、学生の学習状況を共有するなどの取り組みの成果もあったと思われる。 初年次セミナーIの目指すゴールの明確化、そこに向けたスキルとしての読む力、書く力、問いをもつ力など反復実践とフィードバックの強化が求められている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康・体力に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。また、健康・体力に関する最新のエビデンスを紹介した。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.7（±9.4）点でであった。成績分布別にみると、90点以上が9%、89～80点が49%、79～70点が27%、69～60点が14%、60点未満が1%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち58%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が34%、「わりにそうだと思う」が43%、「まあまあそうだと思う」が22%、「全くそうでないと思う」が1%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が43%、「わりにそうだと思う」が37%、「まあまあそうだと思う」が19%、「全くそうでないと思う」が1%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。また、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が34%、「わりにそうだと思う」が43%、「まあまあそうだと思う」が22%、「全くそうでないと思う」が1%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が3.9～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考えるが、授業時間内において学生がもう少し主体的に学ぶ時間を設けたいと考えている。 学習量の評価では、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」の質問について、「していない」が52%、「取り組んだ」が48%と、半数以上の学生が授業課題以外の学習に取り組んでいなかった。授業課題以外の学習で、学びを深めることの必要性や楽しさを伝えることによって、学生の学びの意欲を高めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.1（±8.4）点であった。成績分布別にみると、90点以上が26％、89～80点が53％、79～70点が15％、69～60点が4％であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、79％の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が57％、「わりにそうだと思う」が35％、「まあまあそうだと思う」が8％とほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.5）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が33～45％、「わりにそうだと思う」が37～39％、「まあまあそうだと思う」が14～25％と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.3）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が37％、「わりにそうだと思う」が39％、「まあまあそうだと思う」が18％と、多くの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 受講動機には「必修科目である」が100.0%となっており、「関心のある内容である」は10.3%であり、初学者である受講生にはシラパスのみでは、授業の意図する部分については理解されにくいことが考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.7点、再試対象者は2名であった。標準的レベルに達した者99.8%、内、理想的レベルに達した者87.7%であった。 到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.3、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」「事象（支援、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」が4.2であり、本科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、保健福祉学部を学ぶにあたっての必修の導入科目である。 到達度自己評価および最終的な成績評価からも科目の目的は、果たしていると判断でき、内容的にも妥当であるとする。 ②DP行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解、意欲関心及び態度に位置付けられた科目である。、知識理解は89.3%、関心意欲は77.2%、態度は80.5%であり、概ね内容的には妥当であるとする。関心意欲については、割合は80%を満たさないが、自由記述においては、他科の先生方の講義がこれから看護を学ぶ上で参考になった等の意見が寄せられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が4.4、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」は、4.0であった。7名の教員によるオムニバス形式の講義により保健福祉学への導入科目としての役割を概ね果たしていると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 学生が4年間の学びのスタートして、保健福祉学への理解と関心を高める科目としての目的を果たせるよう、担当する教員とさらなる充実を目指していきたいと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 高校の生物の学び直しではなく、大学の学びに必要な生物学としての位置付けで講義を行った。講義は、生物学の基礎知識の修得から始め、いくつかの疾病をモデルに、疾病が生じる原因を形態機能学や疾病学に関連づけ内容を展開した。 ② 初学者である学生を意識し、興味関心を持たせるために身近な疾病モデルを題材に選んだ。難しい内容は、理解しやすい言葉・表現を使い、繰り返し説明した。 ③ 早期からの振り返りと主体的学習を促す意味で、講義進行に併せ講義の重要な点をまとめるための「ポイントの整理」を8回提示した。 ④ 小テストを2回実施し、試験後に問題の解説と成績開示を行い、学びへの意欲・モチベーションを高めるようにした。 ⑤ 学習課題の評価項目に、雑誌・図書を使うことを明記することで、学生に図書館活用を促した。 ⑥ 講義中に質問を受ける時間を設けるとともに、メールなどでも質問を受け付けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	① 総合評価の平均値は73点（±12.7）で、66%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は35%だった。筆記試験の平均点は39/60点（得点率65%）、小テストの平均点は15/20点（得点率75%）、講義後の提出課題の平均点は9.3/10点（得点率93%）だった。 ② 学生の到達度自己評価では、「自分なりに目標を達成した4.3」、「新しい知識など得ることができた4.5」、「専門分野の課題を検討する力がついた、的確に判断する力がついた4.5」であった。また「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、4.5だった。 ③ 学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が35%・48%、課題以外に学習に取り組んだ学生が78%いた。学生からは、「小テストの勉強・復習をした」、「課題について調べた」、「解剖生理の教科書と比較し勉強した」「提示されたポイントの整理をした」、「ノートにまとめた」などの意見があった。一方、「時間がなかった」などの理由で予習・復習をしてない学生が22%・9%おり、学生間での主体的学習量に差が認められた。 ④ 図書館を利用した学生は79%、学術データベース利用者は65%、インターネット利用者は67%であった。自由意見より、学生は授業内容や課題について調べるために図書館を利用しており、今回、課題の評価項目に雑誌・図書の利用を提示したことは、図書館利用を促す意味で一定の効果があつた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、大学で学ぶ生物学として、高校で学ぶ生物学を基礎に専門基礎科目や専門科目へと講義内容を展開していく。このような点から、CP、カリキュラム上の位置付けは妥当であると考える。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 生物学の基礎知識を固め、他科目と連携させた講義内容は、上記に記載した学生の自己評価や成績の状況、学生の自由意見から、学生が学ぶ内容としては妥当であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「授業はとてもわかりやすく説明されていた」、「解剖や免疫などの復習になった。新しい知識も得られた」など学生の自由意見や授業評価から、今年度、取り組んだ授業改善には、一定の効果があったと思われる。次年度も引き続きこの改善策に取り組む。 ②加えて、主体的学習が不足している学生に対しては、学びに積極的に向き合う姿勢を育成するために、学生参加型の講義を意識し、学生と応答しながら講義を行う、ポイントの整理の進捗状況を確認するなどの工夫をしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	一般教養科目の位置づけとして、高校の生物の学び直しではなく、大学での学びに必要な生物学の知識を修得するという目標のもと講義を実施した。かなり難しい内容も含まれているが、受講生の多くが、図書館を利用し、学術データベースを利用するなどの学修姿勢を示している。しかし、一方で学修量が不足している学生が認められ、目標達成度にも影響していると考えられる。まずは、上記に記載した学修姿勢を育成するための改善策に取り組んでみる。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまでの年度と同様に、1年生、全学対象、かつ苦手な学生の多い数学ということであり、また、受講の動機からも、基本的には興味関心よりは単位取得を目的として受講している科目であるため、内容理解へのモチベーションを上げる必要から、テーマを身近なものにすることを特に意識した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業アンケートの結果からも到達度自己評価において平均的に3.5～4程度の結果になっており、ある程度達成できたとは考えている。ただ、オンデマンド配信の形式から対面授業への形式が戻った結果か、課題の難易度は大きく動かしていないにもかかわらず平均成績がやや低下している点が懸念事項である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は特定の学科のカリキュラムに関連すると言うよりは、全学共通の教養科目であるため位置づけは難しいが、学習到達度について概ね達成されたと評価できるため、この点についても大きな問題はないと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学修時間等はある程度確保されており、基本的には問題なさそうである。ただ、オンデマンドで実施していたときには課題を実施しながら復習するなどが可能であったが、対面に戻った結果そういった復習の仕方ができなくなったためか、平均成績が低下している点が懸念事項としてあるため、配付資料などから復習しやすくすること、また、毎週の課題が成績評価上重要であることをもう少し繰り返し指導していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	オンライン授業になった2020年度に授業の進め方などを見直し、それに基づいて本年度も授業を実施した。その結果、基本的には成績評価の基準も明瞭になり、何をやれば良いのかという意味ではわかりやすくなっていると言えそうである。一方で、一度しか聞くことのできない対面授業という前提に基づいて、もう少しわかりやすくする点については改善していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	コロナ禍におけるここ3年、社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	例年の実践で効果を実感している方法、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	長年の課題である、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	年度当初に学生に示したシラバスでの「行動目標」は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	永松 有紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 生活に関連する化学物質・化学的現象を中心にしながら、講義内容の構成を行った。 2. 受講学生が高校で学修した「化学基礎」の理解度を確認しながら、不足部分を補う内容に適宜変えて各回の内容を進めてきた。 3. 女子学生が興味ある「生活の中の化学物質（例：化粧品、食品、サプリメントなど）」について、毎回取り上げ、単調な講義内容にならないように準備した。 4. 内容に応じて、演習問題を準備して、学生の理解度が確認できるような授業構成とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	1. 本試験を受験した全学生が合格点を取り一定の到達度に達したということから、教育目標はやや達成されたと考える。 2. 各回の学生への復習内容の質問に対して、一定の回答が返せており、教育目標に関して標準レベル（標準：身近な化学の基本的な知識をよく理解し、それを人に説明できる。）は7～8割程度達成したと考えられる。 3. 本試験素点とレポート点との2つによる総合評価であった。本試験素点だけで知識理解度を評価すると、持ち込みを許可した試験であったにもかかわらず、解答が不十分な箇所もありDP1に関しては達成したとは言えない。レポートに関しては、優れた内容も多く、授業に対する姿勢は十分に評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. 科目名からも生活に関する「化学」の内容であることが分かりやすく、また関心も持ちやすい。これを念頭に置き、高校までの学修程度（理系／文系）や関心の程度に関わらず、これからの学生生活、卒業後の生活に役立つ内容も織り交ぜたことで、教養科目として十分に内容的妥当性があると考えられる。 2. 本学科の専門科目との関連性からも、講義内容は科学的思考力を養うことができるように構成しており、内容妥当性は十分にある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 高校までの理科の選択状況・化学の学修状況は学生により大幅に違うため、すべての学生の受講開始前の状況を把握することはできない。従って、講義内の学生との質疑応答で状況を判断しながら、適宜説明を補足した。しかしながら、想定外に化学的知識がないケース（中学校以下での学修内容の欠落）も多々あり、自己学修である程度補うように助言した。 2. 不明点は、全回の講義（対面形式）中あるいは終了直後に直接、また講義終了後にはメールで質問するように声掛けしたが、学生からの質問は少なかった。成績評価対象であるレポート課題の解答内容に迫る質問に関しては、公平性を期して直接的な解答を避け、自身で調べ学習をするように促した。 3. 講義は自由座席としたが、机間を回することで講義態度を学生自身が適切にするように促した。また、学生の興味ある話題も適宜取り上げながら、単調な授業とならないようにした。講義資料への書き込み、演習問題の解答をする時間を作り、聞くだけの授業とならないようにしたため、総じて講義態度が良かったと思われる。 4. 学生の入学時の化学とその周辺知識のレベルについては、個人差があることは分かるものの、詳細は不明であった。初回講義時に、アンケート調査や簡単な小試験等により、受講学生の状況を客観的に把握する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. 本年度は全回対面講義形式であり、直接あるいはメールで質問をする機会を作ってはいたものの、全回遠隔形式で会った昨年度よりも、講義中および講義後に積極的に質問をする学生は少なかった。学生が自身の理解度を正しく把握して理解できていない箇所を抽出できなかったこと、また、どのタイミングで質問していいのか分からなかったことが主因であると考ええる。来年度以降は、小テストによる理解度の確認、学生自身のプレゼンの時間を作ることや質問タイムを明確にすることが必要だと分析した。 2. 生活の中の化学的現象や化学物質に一定の興味を示し、今後の生活や専門科目に役立つことを多少なりとも認識できたようにみられた。レポート課題に関して、インターネットは活用しているが、書籍や論文等の活用はほとんど行われていない。情報の収集・活用についての声掛けも必要だと分析した。 3. 一方、目に見えない原子、電子等、化学反応、濃度計算、公式の活用についての理解度は、当初の目標よりも低く、開講時の化学関連内容の理解度・知識レベルの把握とそれに基づく講義内容の調整が必要だと分析した。 4. 講義態度、出席状況については総じて良好であった。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は17名、回答率は81.0%であった。受講動機を見ると、「単位数を確保する」が64.7%、「関心のある内容である」が41.2%、「友人が履修している」35.3%であった。保健健福祉学部3学科同時開講の科目のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度より全面的に対面授業となったが、昨年度と同様に授業中の確認テスト・コメントおよびレポートで成績評価を行った。素点の平均点は85.10点、理想的レベル（90点以上）に達した者は5名、不可と評価した者は0名であった。平均点は昨年度(81.75点)より大幅に上昇している。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.8、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はともに4.6であり、いずれも昨年度を上回る数値である。また、DPには加えていないが、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値は4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値は3.8であり、これらについても昨年度の数値を上回っている。これは「法学」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによると思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、「単位目当て」の学生のみならず、内容に関心のある学生が多く履修している。この科目は、将来、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.9、「期間内に行う学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.8、「説明は理解しやすいものであった」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値はともに4.6であり、いずれも昨年度の数値を大きく上回っている。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は16名、全く復習をしなかった学生は15名で、予習・復習をしていない学生がほとんどであった。授業以外に学習していない理由として「他の教科の課題などで忙しかった」、「授業内で十分理解できたから」、「する必要がないと思ったから」という意見が見られた。他方、授業の課題以外に具体的に取組んだ学習については、「気になった法律や憲法、権利などを調べた」との意見が見られた。学生からは、「日本の権利についていろいろな見方から学ぶことができました」との感想が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が多くの学生に定着することを目指したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は初めて中国語を学習する学生を対象とし、中国語の入門知識をマスターすることを目標としています。授業の実施にあたり大切にしていることは2つありました。1つは、学習者に中国語の特徴と学習方法を把握してもらうこと、もう1つは学習者が楽しみながら、しっかり練習できるようにリズム感のある授業にすることです。 ②開講時に学習目標や学習方法、評価方法を明示した。毎回の授業に授業スケジュール及び予習・復習の内容を学生に明示し、予習・復習してもらった内容は必ず学生に発表してもらい、間違ったところを訂正し、分かりやすく説明しました。受講動機は「関心のある内容である」が88.9%であったので、大多数の学習者の受講動機に合ったものと考えられます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	大多数の学生は毎回の授業に真剣に取り組み、各課の小テストや期末試験も優秀な成績を収めたことから上記のように評価した。 また、学生による到達度自己評価において、（1）自分なりの目標を達成したの項目の平均値が4.2であった、（8）コミュニケーション力や表現力を高めることができた項目は4.3であった、（1）～（9）の項目の中央値がすべて4.0であったことから上記の評価は適切であったと思われます。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目である。学生に中国語の学習方法を伝え、中国語学習において、分かる、できる、つながるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生が優秀な成績を収めたことから、内容的には妥当であったと考えられます。 DP、行動目標からみての内容的妥当性 「受講動機」は関心のある内容であったことや、「到達度自己評価」において、(1)自分なりの目標を達成したの項目の平均値が4.2であった、(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができたの項目は4.3であった、(1)～(9)の項目の中央値が共に4.0であることからみて、内容的には妥当であったと考えられます。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	常に学生の学習状況を確認し、無理のないように授業を進めた。 「授業の質評価」の5項目の中央値はすべて4.0であることから授業の進め方は適切であったと言えます。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「授業の質評価」5項目の中央値はすべて4.0であることから、総括的に高い授業効果が得られたと評価する。 如何にしてすべての学習者に同等程度の授業効果を得られるかが課題です。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル入門	1	前期	選択	はい	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」75%、「単位数を確保する」50%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れつつ、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。③毎回小テストと会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由には、「どのようなことをしたいかわからなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をすることで自習を促す。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86点であり、再試験対象は3名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、44名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては84%、機能表現は86%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的妥当性があると考えられる。②DP、授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ、以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	宮浦 崇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	PCのある演習室での実施で、受講者数が少人数であったが、個人のスキルの違いによる進捗状況の差があまり大きくならないように個人演習での「つまづき」を最小化する授業内容となるよう心がけた。 開講当初に実施したアンケートから、受講者のPCスキルのスタートラインが、高校までの学習経験の違いから大きく差があり、一層の習熟が必要な受講生がおよそ三割程度いたことから、講義回の3回は、大学が示すICT活用のためのルール・規範などの情報に繰り返し触れながら、PC操作やメール送受信、キーボード入力などの基本的PC操作スキルの向上に焦点をあてた授業進行をおこなった。 授業中に教室での進捗状況確認やアンケートから、既に一定のITスキルのある受講生からは、内容が平易であり、高校や自分自身のスキルアップによって既習の内容が多くあり、それらに時間が割かれることへの不満の声が届いたが、この科目が目指す学習到達目標に、多くの受講生を導くために必要な時間・措置であったことを理解してもらうように説明をおこなった。そのような受講生に対しては、より高度なオプション演習や他の履修者に対するサポート役をお願いするなどして、その点について評価に考慮した。受講生の習熟に応じた課題開発や授業運営方法の検討など、今後も工夫していきたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	提出された各回の課題、小テスト、説明課題、プレゼンテーション資料の作成と発表、最終レポートの作成課題の到達度（評価点）からは、シラバスに示した3つの到達目標（行動目標）は受講生の多くが達成されたものと見なすことができる。また授業アンケートの自己評価の結果に照らしても同様の結果であると判断する。なお課題未提出により最終的に目標を達成したかどうかの判定が困難であったため、各講義回の累積評価点が不足しD評価となった学生が若干名いた。 【参考1】シラバスに示した到達目標 目標1. メディアリテラシーに関する理論や重要な事柄について説明することができるようになる。 目標2. メディアから受け取った情報の妥当性を判断するための方策について説明することができるようになる。 目標3. 文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用した情報発信ができるようになる。 【参考2】最終成績の得点分布割合（履修者12名） S：42%、A：33%、BおよびC：8%、D：17% 【参考3】最終成績を構成する各課題・提出物の評価ウェイト					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	"メディアリテラシー"（情報を伝える媒体を使いこなす基礎的な能力・知識・態度）の習得を通じて、大学が掲げる「豊かな人間性と社会を捉える総合的視点と知識を身につけている」ことに寄与している。また、PC活用スキルを獲得しより高度化することで大学の掲げる「専攻する学問分野における基礎的知識を修得している」ことに寄与している。 本講義で重点的に指導をおこなったキーボード入力や情報発信（プレゼンテーション、パワーポイント活用）の熟達について、その必要性に気づき取り組んだ受講生が一定見られたことは、一層のスキルアップのための基盤が形成されたこととして良い傾向であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	PC教室での演習授業において、受講生の習熟度の違いによる課題分量や難易度調整について、継続して改善方を検討していきたい。本年度も「簡単だった」「難しかった」両意見が二極化する傾向が見うけられたため、「難しかった」側への対応だけでなく全体的対応を心がけていきたい。本年度は受講生同士が相談しながら作業をすすめられるよう2名以上（可能であればペア）となるような着席指示をするなどした。 また、大学入学までの段階で極端にPC利用経験が浅かったりキーボード操作に不慣れな受講生については、授業時間以外の場面（PC操作、課題作成、大学のメールシステムの操作など）で履修や予習の負荷が非常に高かったように見うけられたため、必要に応じて大学内の関連サポート窓口や各種リソースに適切につなげることができるよう準備をおこないたい。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示ください。	最終レポートや最終発表（プレゼンテーション）の完成度や履修者アンケートなどから、本講義で目指した到達目標（行動目標）は概ね達成できたものと考えている。上記で示した課題などに留意しながら、次年度の授業デザインを検討したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、大学生としてのICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろ、PCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やデータ処理スキル、インターネットの活用手法、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。 受講動機では、「単位数を確保するため」が50%近くある。第1回講義において本科目の位置づけとICTの重要性を看護業務等と絡めてしっかりと説明したが、「関心のある内容である」が36.5%と伸びていない。看護学科の学生にICTの重要性を理解させるうえで、次年度に向けてさらなる改善が求められる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.6点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「秀・優」の学生が68%、「良」も加えると92%に上っており、授業目標としているレベルを達成できたといえる。「可」の8%の学生は、授業内容は十分理解できてはいるものの、授業等で習得したスキルや知識が復習不足から身につけておらず、課題の内容において満足のいく結果を残せていない状況である。受講者人数が多いことから、個々の状況把握が十分ではなかったことが考えられ、今後の検討課題といえる。 学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として（2）の項目において高い数値を示しており、学生自身も授業目的であるICT活用術の修得を実感できていると言えるのではないだろうか。また、（7）の項目も高い数値を示している。毎回の授業内容、練習課題等において看護に関連する話題を提供した点が数値の伸びにつながっていると考えられる。ただし、1年生前期の科目であるため、本授業の内容が4年間の大学生活や卒業後の業務の中で重要な要素となる点については、学生自身が把握しきれておらず、他の項目の数値の伸び悩みにつながっていると考えられる。昨年度も同様の傾向を示しており、授業内で改善がはかれるよう努めてはいるが、次年度に向けてさらなる改善の余地がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される選択科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫している。学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、パソコンの基礎スキル向上を目的とする授業内容であることが影響していると考えられる。次年度に向けて何らかの手法を検討したい。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で創造夫していく課題になると対応できない点が見受けられる。復習の時間不足が原因と考えられるが、次年度に向けて改善策が必要である。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、(1)から(3) に関して「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」を合わせて7割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、授業内課題については周囲と相談しながら行わせるなど、PCとだけに向き合う事のないようにしたが「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」あわせて4割強であり、検討の余地を残した。 「学習量の評価」では、（１）については「0回」が4割弱、（２）については3割弱を占めており、「1回」も含めると５割近くになっている。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、対応を検討する必要がある。 また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていた。これについては、昨年度に引き続きよい結果が得られている。今後は、更なる数値の向上を目指し、検討を重ねていきたい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点ではよい評価を得ることができた。しかしながら、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点では、毎年同様の評価傾向にあり、様々な工夫を凝らしているが結果に結びついていないので、さらなる改良の余地を残した。 以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫、グループ活動への取り組みなど、次回に向けた改善を検討していきたいと考えている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 洋章

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、科目名の通り情報処理に関する科目であるため、事前に必要な前提知識についてシラバスで周知をしている。また本年度はアクティブラーニングを実施するため、授業毎に提出された課題から各班のスキルレベルが一定となるよう調整した。昨年度は本授業を初心者向けの情報科目と認識して受講している受講者が若干名存在していたが、シラバスに受講に必要なスキルセットおよび知識について記述し改善を図った。 本科目の受講動機をみると、「資格習得に必要である」の項目が41.9%、「関心がある内容である」の項目は25.6%と、昨年度（「資格習得に必要である」：65.2%、「関心がある内容である」：43.5%）と比較し、いずれの動機の割合も減少していた。一方で、「単位数を確保する」の項目が55.8%と過半数を超えていた。本授業は情報系の科目の中では比較的難易度が高い旨を初回のオリエンテーションの際に説明しているが、受講動機とのミスマッチが起きていないかについて、次年度はシラバスや初回のオリエンテーション時に丁寧に説明をしたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				やや達成されなかった
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均は70.5(標準偏差：8.6)であり、標準的レベル（成績が60点以上を想定）に達していない受講者が全体の約6%（3名）、理想的なレベル（成績が80点以上を想定）に到達している受講者が全体の約11%（5名）であった。成績の平均については昨年度と同等であったが、理想的なレベルに到達している受講者の割合については減少していた。一方で理想的なレベルに到達している受講者の人数においてはほぼ同等であったため、受講者が増えたことにより理想的なレベルに到達している受講者の割合が減少したように見えたと考えられる。 目標別にみると、知識理解に関しては65.9%、技能表現に関しては66.1%の到達度であり、いずれの項目においても昨年度より低い結果であった。一方で、標準偏差では知識理解が11.1、技能表現が10.2と非常にばらつきが大きい。このことから、受講者間における学習の理解度に大きな差があると考えられ、理解度の低い受講者へのフォローアップを次年度の改善内容としたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「養教一種免」に関連する科目であり、「情報機器の操作」における科目として資格取得の上で必修である。単純な機器操作だけではなく、情報モラルや著作権などの情報を扱う上で必要となる知識や、情報を発信するために必要な技術について習得を目指している。近年の情報社会におけるニーズと情報技術の活用の観点から、授業の難易度は高めであると認識しているが、到達度自己評価の結果や学生の成績状況を考慮すると、内容的には妥当であると考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	はじめに「授業と質の評価」において、「（４）授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が4.5と、学科別集計の平均と比較し高く、この点は評価できる。一方で、「（３）説明は理解しやすいものであった」の平均が3.6と低く、学科別集計の平均と比較すると低いものの、昨年度の結果である3.6と比較すると向上した。これは、授業が遠隔授業から対面授業になったため、質問しやすい環境になったためと考えられる。 次に授業評価アンケートの学習量の評価では、準備および復習を1回以上実施した割合が55.8%と学科別集計および昨年度の結果と比較し低い結果となった。この理由として、自由記述より「他の必須授業に時間を費やしたため」という意見が複数寄せられていた。本科目は学科の必須授業ではないため、やむを得ない結果であると考える一方で、次年度は受講生の負担にならないような予習・復習の方法について検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成目標への到達については、今一步及ばない結果となった。今年度の課題として、受講者数間の理解度の差と授業外学修における効率の良い課題提示が挙げられる。次年度は、授業内での確認テストを増やし理解度について把握するとともに適切な難易度の課題を提示する等、履修者の状況に合わせたきめ細かい対応を実施していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学の5学科からの受学生（80名）があり、開講3年目で初めての対面授業となった。最初に採点対象学生数とアンケート回答者数（）を示す。看護12名（4）、福祉：26名（9）、栄養：7名（4）、英語：9名（3）、観光文化：26名（6）。看護学科の学生への評価アンケートでは、4. 学習量の評価の（1）授業前の予習時間が、昨年度までは、ほぼゼロであった。これは予習課題を掲示していないことが問題であった。今回は外部講師には授業1週間前には、少なくとも30分は事前学習が必要な教材を公開できるように依頼した。5名の外部講師は、動画、文字資料の形式で課題を出してくれた。4. 学習量の評価の（1）授業前の予習時間では、①0回が2名、②1回が1名、⑤6回が1名であり、劇的ではないが、増えていることは増えている。なお、復習についても全く同じ結果であり、学習量が不足している学生が多いと言える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	5学科の成績（％）を示す。看護：A33.3、B25、D25、E16、7。福祉：A26.9、B23.1、C11.5、D7.7、E23.1、J7.7。栄養：A28.8、B28.6、C14.3、E28.6。英語：A22.2、B22.2、C33.3、D11.1、E11.1、J7.7。観光文化：A19.2、B26.9、C11.5、D19.2、E19.2、J3.8。評価はレポート（60％）とレポート外の提出物とは5人の外部講師の授業についてのコメント5回分（評価40％）とした。前年度までは、レポート100％としており、不合格者が4割出る学科もあったが、今年度はレポートが60％となり、分散された形となり、履修が昨年度よりは容易になったと言える。授業の質評価の5項目の平均を5学科別に％でみる。看護：3.92、福祉：3.12、栄養：2.68、英語：3.54、観光文化：3.42となる。最も低い項目は5学科共に（3）説明は理解しやすいものであったであり、5学科の数値（％）を示すと、看護：3.5、福祉：2.4、栄養：1.8、英語：2.7、観光文化：2.3である。これはどちらかというと厳しい数字である。昨年比でみると、授業の質評価は全体平均では向上した。看護の学生の学習量については、予復習も①（0）が2人いる。これは回答者の5割であり、学習量が不足していると言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価の10項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.94、福祉：3.07、栄養：2.72、英語：3.63、観光文化：4.5となる。3年前期の選択科目であり、あくまで総合人間科学の科目であるところが肝要と考える。看護の学生の質問は「北九州の技と文化」でのレポートの形式に集中する傾向があり、なぜ専門の内容に書いてはいけないのかということが、よく問われた。対象ではない、DP2（思考判断）、5（技能表現）も、学生からの提出物（コメント、レポート）の評価対象とせざるを得ないところに、DPの配置についてはやや苦しいところがある。しかしながら、論理的思考や表現技能を3年になるまでにはある程度鍛えられていると期待したい時期に配置されている授業であり、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当だと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	担当教員への意見は一つ。質問に対して優しく丁寧に教えてくださりありがたかったです。おそらくこれは授業後に残って質問してくれた学生だったと思う。80名の授業であり、授業中に一人一人の学生に対応しきれていないところが大いにある。オフィスアワー等を使い、学生の要望に答えていくことが必要だと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的評価としては、成績はA,Bを合わせて55.3%で、授業評価でも昨年比で伸びたので申し分ないのではないかと考える。昨年度の全学科の2. 到達度評価（DP）の10項目の平均（%）を示す。看護：2.9、福祉：2.61、栄養：3.78、英語：4.18、観光文化：3.21。3. 授業の質評価（5項目の平均%）は次となる。看護：3.42、福祉：2.66、栄養：3.76、英語：4、観光文化：3である。看護では到達度評価、授業の質で共に上がった。対面授業で学生に向き合えるようになったことを活用して、更なる授業改善を計画したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全7回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は2日間の選択科目で集中講義で、保健福祉学部3学科合同講義である。受講動機としては「関心のある内容である」70%、「単位を確保する」75%であり、昨年より関心をもって受講した学生が多かった。授業内容はアクティブ高齢者の支援について講義（4コマ）とPBL（事例検討4コマ）を行うものである。昨年度と同様看護学科教員2名配置しており、講義内容について公衆衛生の視点と加齢変化における生活への影響、地域包括ケアを強化した。看護学科以外の学生にも理解が深まるように講義内容を工夫し、丁寧に説明を行った。今年度は、本学のみでの講義となつてから、初めての対面での開講となり、PBLを行う教室の確保を行い。情報処理室や図書館も利用できるように調整を行った
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の教育目標について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からみると、「自分なりの目標を達成した学生」は、（わりにそうだと思う、かなりそうだと思うが88%）、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う、かなりそうだと思う83%）、「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う、かなりそうだと思う79%）、「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う、かなりそうだと思う83%）であり、達成できたと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要とする技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う、かなりそうだと思う88%）であり、ほとんどの学生が目標程度達成できたと考える。 以上、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても、本科目の教育目標は達成できたと考えます。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、総合人間学の位置づけであるが、3学科でのPBLに際しては、看護の専門性についても再認識できる科目であり、専門職としての協働を考えることができる科目であり、内容的に妥当であると考ええる。 また、看護者として基本的な知識をもとに他大学の学生との意見交換を行うなど、表現力を培うことにもつながっており、内容は妥当であるといえる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(4.2)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3)であった。他学科の学生とのPBLは、看護の専門職としての自覚を促し、今後学んでいく内容とも関連があり、学習意欲への促しにつながったのではないかと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義は3学科でのPBL形式であり、学生の主体的学習態度が求められる。グループワークであり、自身の専門分野での意見を求められることもあったため、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」については約8割がそうだと思うと答えており、シラバスを確認したり、インターネットでの検索を行ったりして、積極的に取り組んだと考えられる。しかし、今年度は対面での開講であったが、インターネットを検索し利用した学生は100%であったのに対し、図書館を利用した学生は58%であった。インターネットについては情報量も多く取捨選択の必要もあり、今後、指導の必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	多くの学生が自分なりの目標が到達できたと述べており、本科目の教育目標は達成されたといえる。対面でのPBLであったため、遠隔時に比べると導入はスムーズであった。しかし、集中講義であったため、体調不良の欠席者もあり、メンバーの偏りが出ることもあり、組直しを行った。しばらくは、臨機応変に対応し、今後も授業内容や展開方法など教員間で十分に協議し、より質の高い講義をめざしていく。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	例年、受講動機としては「単位数の確保」の割合が高くなっており、本科目の内容に強い関心を持って履修している学生が多いとは言い難い。従って、単位の取得という後ろ向きな動機の学生に、本科目を受講することの意義を理解してもらうことが重要な課題と考え講義内容を準備している。アンケートの総合的な結果や講義時に提出してもらっているコメントの内容から、その課題は概ね達成できたと思われる。 なお、当学科の受講者数が少ないため、このリフレクションカードは全学科の結果を総合的に見て作成している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本科目は、学生に将来のキャリア形成に役立ててもらえるような知識を提供し、早い時期からキャリアについて考えることを促すことを目的としているが、アンケートの「職業選択の参考になった」などの項目で良好な結果となっているため、概ねその目的は達成できていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの結果から、多くの学生が専攻する分野の専門知識よりも、教養や社会人としての知識を習得できたと感じていることが伺えるが、本科目の趣旨を鑑みれば妥当な結果と考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の位置づけを考えた場合に、予習や復習で学生にあまり多くの負担をかけない方がよいと考えて講義を行っていることもあり、自己学習の時間は少なくなっている。学生の意見から、国試対策など専門分野の課題を優先している学生が多いようであるが、それで問題ないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、全学科合同で実施しているが、学科によってキャリアのために学生が求めている知識や情報が異なっていると感じている。どの学科の学生にも、履修したことが有意義であったと感じてもらえるように、今後も内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する必須講義であるため、 ①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。 ②遠隔と対面の両体制を交互で行う形式であったため、遠隔講義時には解剖学的な3D画像など視覚的情報を共有し、対面講義時には筆記試験の実施や双方向性の議論を盛り込み、それぞれの利点を活かせるよう工夫した。いずれにしても、ある程度一方向的に知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うようにした。 ③画一的な答えだけを暗記するのではなく、体の神秘にみられる物語性という枠組みを、物語性と連結性を持って理解することを繰り返し促した。 ④内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、知識定着の促し、及び理解できていない箇所の気付きのために、毎回講義の内容について、講義終了前に小テストを行い（筆記試験）、その場で解答について復習を兼ねて解説をした。 ⑤折に触れ、医療に関するニュースや現場の実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	"前期試験の平均点は70.1点であり、概ね、標準的な水準に至っていたが、極端に点数が低い学生もあり、小テスト平均が12.6（20点満点）であることに見られるように、普段の学習への取り組み、意欲の低い学生が少なからずいることが反映された結果となった。 到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正し、新たに得ることが、割に、あるいはかなりできた。と評価した学生は78/87人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた、とした学生は77/87人おり、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかったことは、上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうる。 一方、講義内容の特性上、双方向性のやりとりや議論は行いにくく、コミュニケーション力や表現力への効果、及び授業の質評価において、(4)授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、一部の学生については復習の促しには繋がった（30分以上の復習6回以上：47/87人）と高く、復習をほとんどしない（0～1回）と答えた学生が7/87人と例年より著しく低く、例年より自学習への取り組みは高いようであった。試験結果に反映されていない点について、知識の定着について、その検証も含め、さらなる工夫を要する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1 知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルのさらなる工夫も必要と考えられた。 到達度自己評価において、⑩職業選択の参考になった、に対し「わりに～かなりそう思う」とした学生が77/87人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにもかかわらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。 講義の説明は理解しやすいものであった（わりと～かなり）と答えた学生が74/76人おり、遠隔と対面の両形式で行う変則的な形でありながら、学生たちの前向きな取り組みが窺えた。 一方で個人学習に伴う不安や焦りの声も聞かれたため、今後も小テスト結果の共有など、全体の様子、その中でのじぶんの立ち位置の把握の機会担保など、続けていきたい。また、意欲と知識定着が一致していないため、学習方法の助言も含め、促し、支援が必要であると感じられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	知識理解について概ね目標は達成された。学生たちのうちに、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力がみられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持を支援できる工夫を今後重ねていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①専門基礎科目としての科目の位置付けや本科目で得た知識を他科目（形態機能学・疾病学・基礎看護学・薬理学）に連携させる必要性を説明した。 ②講義は、初学者を対象としているため教科書、パワーポイント、資料などを使い、重要点を繰り返し説明した。また、実習を取り入れることで教科書からの学び（知識）を体験を通し強化した。 ③感染症のトピックスや法律改正に伴う最新情報は、文献や資料をもとに説明し興味と関心を持たせるようにした。 ④学習習慣および主体的学習学習を促すために、講義内容を整理するプリント「ポイント整理」を講義進行に伴い10回配布した。学生には教科書や関連する科目と連携させ、まとめるよう指導した。 ⑤例年実施している小テストは、早期からの復習を促すために回数を増やし3回実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は71点（±15.0）で、64%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は34%であった。試験の平均点は40/60点（得点率67%）、小テストの平均点は18/30点（得点率60%）であった。DP1（知識）の平均点は65/90点（得点率72%）、DP2（思考）の平均点は6.4/10点（得点率64%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した4.0"、"新しい知識など得ることができた4.4"、"専門分野について課題を検討する力を得た4.4"、"学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4"であった。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準の明確さ4.5、課題の明確さ4.5"、"説明の理解しやすさ4.4"、"質問を受ける機会を設けていた4.4"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が49%・62%、課題以外に学習に取り組んだ学生が88%であった。一方、予習・復習をしてない学生を3%・10%認めた。学生からは、「ポイントの整理をした、調べ学習をした」などの意見がある一方、「時間が無い、ついていくのに必死」と回答した学生もあり、昨年と同様学生間に学習量の差が出ている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、専門基礎科目として医療に関わる基礎知識を修得し、専門科目につなぐ役割を担っている。CP上の位置付けは妥当である。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 科目内容は、医学系の知識を主に学ぶためボリュームも多く、難しい科目である。しかし、学生の自己評価から、「説明の理解しやすさ、学びへ意欲の深まり」については、一定の評価を得ている。講義内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①今年度実施した改善策を継続すると同時に、一方向性の講義になりがちなため、次年度はオンライン講義の際に工夫したように、学生と対話形式の手法などを取り入れ講義を行い、学修姿勢の育成と講義内容の理解促進に繋ぎたい。 ②科目内容量が多いため、どうしても講義進行が早くなってしまう。学生への問いかけや反応を見ながら講義を進行させるよう努める。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門基礎科目としての位置付け、学生の自己評価・成績からすると、知識の修得についての科目目標は、やや達成できたと考える。しかし、10%程度の学生が復習をしていないと回答したことから、標準レベルに達してない理由の一つに振り返り学習の不足が関係すると思われる。復習にかかる時間を増やすよう早期から提示したポイントの整理を促すなど講義を通して学生に働きかける必要がある。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、各分野の主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療などを解説する系統講義です。疾病の知識は、全ての看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 疾病学各論Ⅰは、内科疾患(循環器、呼吸器、代謝、内分泌、消化管、肝胆膵、神経、救急)と外科・麻酔科・婦人科疾患が範囲です。外科・麻酔科・婦人科は医療現場の最前線にいる専門医に外部講師を依頼し、内科疾患は私が担当しました。範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや看護師国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介したり、外科の外部講師は手術の映像を見せるなど、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答も2割以上あり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は74.2点（最高97点、最低47点）でした。秀：16名、優：26名であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の46％でした。内科と外科・婦人科で平均点に大きな差はありませんでした。60点未満だった6名のうち5名が再試験を受験して3名が合格でした。毎回、多くの質問がストリームにあがるなど、学生さんの授業態度も良好でした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむをえないと思います					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「疾病学各論Ⅰ」は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。1年次で学んだ「形態機能学」や「感染と免疫」の基礎として、2年次以降の全ての看護専門科目の学びに不可欠な内容を教授します。看護師国家試験にも疾患に関する問題が多く出題されますので、早くからの勉強が必要です。疾病学の残りの分野（内科疾患の血液・腎臓、小児科疾患、精神科疾患）は2年次後期の疾病学各論Ⅱで学びます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの項目において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。学生参加の評価が低いのは毎年の課題ですが、ストリームに上がった質問に対してはできるだけ次回の授業で説明するようにしました。 授業評価アンケートの自由記述では、授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約半数でした。 なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、試験問題を私が見直すなどして出題形式や難易度に統一性を持たせるように試みました。次年度も継続したいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。大多数の学生さんは標準的レベルに到達することができたと判断しました。後期の疾病学各論Ⅱも頑張ってください。 3年次以降も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	東 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬理学	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・2022年度は約100人大講義室の対面講義であった。昨年度は遠隔講義であったため質問への解答が即座にできないことが課題として残ったが、講義時間内に応えることができた点は非常に良かった。 ・大教室の割にスクリーンが小さいため、各講義のスライドの文字を大きくしハンドアウトを印刷した。 ・昨年度までと同様、講義の終わりに、その日の振り返りテストを行い、知識の定着を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	・学生アンケートから、44%の学生が予習をし、51%の学生が復習をして授業に臨んでいた。予習復習をした学生の比率は昨年度8割を超えていたので減少した。本年度は昨年度のように予習復習について触れなかったこと、自由記述のコメントによると「他の課題で手いっぱいであった」との記述が例年より多数見られたことが影響していると思われる。 ・時間外学習をする学生の割合は減少していたものの、当該科目に関して「わからない時は積極的に本やインターネットで調べた」など、必要に応じて主体的に学習する姿勢が定着している学生も多数いることがアンケート自由記述欄から伺えた。 ・今年度の学生の評価は毎回の講義終了時の小テストの点数の積み上げと、学期末の確認テストによるものであるが、追再試験当事者が数名いたものの、理想レベルが63%、標準レベルが29%であり、平均点は81点で到達目標は達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・当該科目の受講動機は「必修科目」で「資格取得に必要」であるためである。 ・「DP1-2：看護学分野での基礎知識の修得」の科目であるが、成績も学習到達度の自己評価も悪くなく、内容妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・ 毎回講義時間に小テストを行うことで、内容の理解復習に役立っているので今後も取り入れる。 ・ 講義中に回収する自由記述からは、「今日の内容は1年の時にも学習した事の復習になった」「今やってる他の科目とつながってよくわかった」など、すでに学習した、あるいは並行して行われる学習内容との接点から知識が深まることもあり、今後も学生の声聴きながら講義を進めていきたい。 ・ 課題として挙げるならば、予習復習を1度もしなかった学生が3割程度いたことから、予習復習をするように促すことにする。 また、時間は足りないくらいなので、他の講義と重複する内容は知識の確認にとどめるなど時間配分を改善する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・ 概ね学生は、標準レベル、理想レベルに達しており問題はなかったと思われる。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
家族と健康	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機を見ると、全員が「必修科目である」をあげている。「関心のある内容である」のは10人（昨年は33人、）で、多くの学生は家族のことを学習することに興味を持てなかったようである。 これは、看護師が患者の診療の援助をする役割であり、家族に対して看護しているイメージがないと思われる。現在、病院の看護でも退院を見据えた看護が要求されることから、なぜ看護師が家族のことを学習しなければならないのかを事象にあげ、学習の必要性を説明した。家族を対象とする看護について、事例から看護師に必要な視点であることを意識し、家族を含めた看護に興味を持ってもらうようにするためである。個人ワークや課題になってしまいうことが多かったが、ほぼ提出期限に遅れることなく取り組んでくれた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は、平均点75.8点（昨年78.0点）であった。成績の内訳は、秀1名（昨年16名）、優 30名（昨年29名）、良44名（昨年37名）、可20名（昨年21名）、不可(放棄) 1名（昨年 0 名）であった。昨年度に比べ、平均点がやや低いものの、全員が合格できている。ただ、「秀」が昨年度の16名から1名に激減している。 本科目は、レポートおよび授業内で作成する提出物20%、定期テスト80%で評価した。授業内の提出物は、小児患者、高齢者、家族介護の事例をアセスメントしてもらった。事例については、回を重ねるごとに情報量を増して複雑なものにしていった。提出物の完成度には個人差があったが、回数を重ねるごとにアセスメントに慣れて、仮説の立て方も具体的になる人が多く見られた。これは、教員が授業中にラウンドしながら助言したり、席が近い学生同士で話し合ったりして、難しい家族理論を自分なりに解釈できたことが要因と考える。昨年度はリモートであったことから、友人と成果物を見せあいながら仕上げるのが出来なかったことから、成果物の仕上がりにかなりの差があった。その差がなくなったことで、最終評価のバラツキ（標準偏差）が小さくなったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の基盤」に位置し、DP1：知識・理解、DP2：思考判断、を目標にしている。「家族」についてが患者の背後にいる人々であり、受講動機からもわかるように、看護の学びでは「家族」についての意識が低い。そのため、家族看護学に興味をもち、これから各看護学方法論の中で家族を含めた看護を考えていく動機づけの科目と位置づけている。 「家族」の定義や、「家族」の機能を整理することの前に、なぜ看護の学習に「家族」のことがあるのかを説明した。その後、家族看護学で使われる家族理論を提示し、その中で代表的な3つの理論について、事例演習を交えながら実践的に考えていった。 到達度自己評価は、最も高かったのは「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」であることは、看護において家族の重要性が理解されたこともあるのではないかと。一番低かったのは「コミュニケーション力や表現力を高める事が出来た」「職業選択の参考になった」であった。コミュニケーション力について自己評価が低いのは、授業の中で「円環的質問」を考える演習をしたことも一因であろう。円環的質問では、患者さんの"あなたの考え"を聞くのではなく、"〇〇さんはそのことをどう思っている、あなたは考えますか"という第三者の気持ちになって考えさせる質問をしなくてはならない。その演習では、多くの学生が質問の難しさを感じていたため、患者―看護師間のコミュニケーション技術について深く考えた結果だと考えている。 これらのことから、学生の達成度自己評価は低いものの、理論の理解や思考・判断を授業中の課題を通して深めており、授業の目標は達成できたと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目では、看護学・心理学・社会学における家族の定義を整理し、実際の看護場面での家族のアセスメントを個人ワークで深めた。家族社会学については、社会学専門の外部講師に授業をしてもらった。講師の人柄もあって、学生の反応はよかった。家族看護は社会学の視点が不可欠であることから、今後も外部講師による授業を組み、学生の知識を広げていきたい。 各看護学各論では患者の看護を問題解決思考で考えていくが、家族や家族関係の問題が取り上げられることは、ほとんどない。しかし、退院後の患者の療養生活には、家族を含めた環境をアセスメントすることが必須のこととなるし、最近は退院を見据えた看護が必須である。家族の看護を考えるにあたって、根拠に基づいたアセスメントをするために家族発達理論、システム理論、危機理論を紹介した。 授業の後半は、理論を使って3つの事例を考えた。。各看護学各論では患者の看護を問題解決思考で考えていくが、家族や家族関係の問題が取り上げられることは、ほとんどない。「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」が最高点であることは、個人ワークに真摯に取り組んだという事だと感じる。学生が興味をもつような事例や展開を心がけたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業以外の時間に学習に取り組んでくれた学生が少なく（25％）、この授業のために図書館を利用した（9％）も少ない。一方、インターネットで検索した人（45％）が半数近くいたことから、今後の各看護学に繋がってほしいと願う。 本科目は、新カリキュラムから始まった新しい科目である。そのため、先輩からの情報が少なく、家族看護学について馴染みもなかっただろう。学生によっては、「家族」にネガティブイメージをもつ人や、トラウマをもつ人もいるかもしれない。授業での取り上げ方によっては精神症状を訴える学生が出るリスクを考えながら、手探りで進めた。毎回、授業のコメントを書いてもらいながら学生個々の反応を注視していった。今回は、そのような反応を示す学生はいなかったが、科目の特性から、気になる学生はアドバイザーに情報をもらい、また、学生相談室のカウンセラーに助言をいただきながら、学生の精神面も注意しながら進めていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対人関係論	1	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年前期に開講される科目のため、初回数回の授業では心理学の導入を行い、ひとの心的過程を対象とした学問の特徴について理解が深まるよう配慮した。 また、「関心のある内容である」を受講動機として選択している学生は15名（86名中）と少ないため、学生の受講動機が高まるよう心理学や社会心理学の基礎知識が日常生活や対人援助場面にどのように関連するかについても解説を行うようこころがけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	平均点は84.4点であり、受講学生間の個人差はあるものの、概ね授業目標は達成されたと考えられる。 図書館、インターネット利用が少なかったのは、本講義が発展的に学ぼうとする学生の意欲へとつながらなかったためと考えられる。定期的に授業内容だけでなく他の情報を活用しながら作成する発展的な課題を提示するなどして、学生の発展的な学習態度へとつながる工夫を行いたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年前期開講科目であり、心理学の学習自体が初めてである学生が大半を占めていると考え、基礎的な理解を問うDP1およびDP2を目標とすることは妥当であると考えられる。 また、授業内容についても、心理学の導入や対人関係、コミュニケーションの成立ちや特徴についての解説であり、DP1およびDP2に対応しており妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義では授業内容に関する質問に対する回答時間を設けたが、今後は、学生自身の自発的な学びのため、より発展的なテーマの提示や書籍等の紹介を行ってきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標と授業内容の関連性は妥当であり、受講学生も概ね目標を達成することが出来ており、授業内容の難易度と進行度は妥当であったと考えられる。 今後は、学生の発展的な学びのために、さらなるテーマや書籍の提示をおこなってきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康教育論	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①健康教育論は、2年生前期に履修する看護を学ぶための基礎科目であり、個人・集団を対象とした健康教育・患者教育の方法や技術を学ぶ科目である。我が国の医療体制は、病院完結型医療から地域包括医療へと大きくシフトしている。その中で看護は、健康づくり・疾病予防から、外来、入退院後の過程で、教育的な支援役割が期待されている。その役割を担うための知識が得られるように、まずは、ヘルスプロモーションや患者教育理論の活用の仕方を講義し、事例を基に指導媒体を作成し、実際にその媒体を用いて指導体験、患者体験ができる講義としている。 ②学生の受講動機では、アンケート提出者の98%が「必修科目である」としていた。8.2%の学生が「関心のある内容である」としていたが、昨年の25%から下回る結果であった。 ③本年度は対面での講義であったが、コロナ禍にあることを考慮し、個々でパンフレットを作成することとした。 ④指導案作成からパンフレット作成、指導までを個々で行い、指導を受ける患者体験もできた。その自己評価を行うことで、学生自身で改善点に気付くことが出来ていた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78点（SD10）であり、最高点88点、最低点63点であった（詳細は、90点：0名、80点：46名（48%）、70点：43名（45%）、60点：6名（6%）である）。 目標別にみると、知識理解に関しては83%、思考判断については72%と、全て70%を超えており、概ね目標達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護を学ぶための基礎」に位置付けられている。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」83%、「思考判断」は72%であった。達成度としては「達成された」であり、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、アンケートを提出した学生の9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値も4.1～4.3であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。 今年は、対面講義が可能となったが、コロナ禍であることを考慮し、全て個人作業とした。作成したパンフレットを用いての指導実践後、全体で学びを発表し合う時間を設けたが、確保する時間が短かったと反省する。自己の振り返りだけでなく、他者の意見からの学びも重要であり、意見交換の時間を十分確保する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護を学ぶための基礎」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考える。昨年の全員が指導体験・患者体験ができる講義とするという課題は達成できた。 今後は、他者の意見を聞くことより多面的に学びを深めることが出来るように、意見交換できる時間を多く設けられる講義としたいと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護学概論」は1年次前期の必修科目であり、受講動機は、「必修科目」が100%である。今年度は対面授業を行った。学生は大学に入学直後であり、主体的学習となるよう、グループワークを導入し、感染予防対策に注意し、グループメンバーとのコミュニケーションがとれるように配慮した。教科書と講義資料を配布して授業を進めた。特に、本科目の授業の進め方、グループワークの進め方、レポート課題などの説明等に配慮した。また、お知らせは、google classroomを利用した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準はテスト60%、レポート40%で評価を行い、成績の平均値は80±9.3点であった。 ②授業評価は、履修者89名中、84名の回収であり、回収率は94.4%であった。「到達度自己評価」では、100%の学生は自分なりに目標を達成したという肯定的な回答であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が4.5、「事象を理解する視点や考え方を得た」4.4、「課題を検討する力を得た」4.4、「的確に判断する力を得た」4.4、「学びを深めたいと意欲を持った」4.4、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.1、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.4、「職業選択の参考になった」4.3であった。目標は、「達成された」と考える。 ③学習量の評価については、予習、復習は62%の学生が取り組んでいた。「授業で理解できていた」「用語やわからないことは自分でインターネットで調べてみた」という学生の回答はあったが、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生の回答として、「授業で理解できていたから」「時間がなかった」「他の科目の課題で追われていた」「何をしたらよいかわからなかった」などの回答があり、予習・復習についての課題の工夫が必要であると考える。 ④情報利用では、シラバスを全員に配布し説明したが、70%が利用したと回答した。また、インターネットによる情報検索は63%の学生が利用、図書館の図書の利用は56%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての妥当性 1年次の看護専門科目であり、看護実践の基盤となる科目に位置付けられている。学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 看護の概念や、看護倫理、看護関連の法律や制度などの基礎的知識を理解し、到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において、肯定的な評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義は教科書を使用し、パワーポイントで作成した講義資料を配布した。看護の概念について、レポート作成とグループワークを導入し、意見交換や学習成果発表会を設定し、学びを共有した。また、自己の看護観をレポートに記述することができた。さらに、最終回は「看護における今後の課題」を考えるというテーマで、レポート作成、発表会を設定し、学びを共有した。 ②授業の質の評価では、項目別に「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」4.4、「説明は理解しやすいものであった」4.2、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表など学生が参加する機会」4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.2であった。次年度の授業で、わかりやすく説明することが課題である。 ③授業の欠席や遅刻、途中でクラスへの出入りをしている学生、レポート未提出の学生もいたため、授業参加に対して個別指導が必要であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習の到達目標は全体的に達成できたと考える。しかし、少数ではあるが、授業への出席やレポート作成については、個別指導が課題である。今後も主体的な学習を取り入れ、グループ学習・発表の機会を作り、学習内容を深めることができるように、課題提示と説明を工夫する。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護理論	3	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護理論」は3年次に配置された選択科目である。受講動機は、「単位数を確保するため」が82%、「関心のある内容」は32%であった。 授業の実施にあたり大切にすることは、学生の主体的な学習である。学生は1年次の「看護学概論」の授業でナイチンゲールやヘンダーソンなどの看護理論家の看護概念について学習している。これまでに看護理論に関する図書は本学図書館に設置されているが、教科書を中心とした自己学習とした。本科目で講義時間内にとりあげる看護理論は7～8であり、主な看護理論家の理論の概要を理解し、看護実践への活用について考えることを目標とする。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準は小テスト50%、レポート50%で評価を行い、成績の平均値は74.6±9.4点であった。 ②授業評価は、受講者13人中、7人の回収であり、回収率は低かった。 「到達度自己評価」では、100%の学生は自分なりに目標を達成したという肯定的な回答であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が4.4、「事象を理解する視点や考え方を得た」4.1、「課題を検討する力を得た」4.1、「的確に判断する力を得た」4.0、「学びを深めたいと意欲を持った」4.0などであり、看護理論の概要を理解して看護実践の活用について考えるという目標は、「やや達成された」と考える。 ③学習量の評価については、毎回の講義で、その日に学習した看護理論家の理論の特徴と看護実践への活用について、レポートを提出することを課題とした。1回30分程度以上の学習については、予習は43%、復習は57%の学生が取り組んでいたが、取り組んでいない学生の回答もあった。理由として、「他の科目の課題で精一杯だった」という理由であった。 ④シラバスは71%が利用していた。図書館を利用(29%)、インターネットを利用(71%)の状況で、主に指定の教科書で学習していた。看護理論の図書の活用については課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての妥当性 看護理論は、看護専門科目であり、看護実践の基盤となる科目で3年次に位置付けられている。選択した学生は一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 行動目標からみると、学生は主な看護理論家の理論の基礎的知識を理解し、看護実践への活用について考えることができた。学習到達度の自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において、肯定的評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義は、教科書とパワーポイントの講義資料を提示した。看護理論家の理論の特徴について概説し、講義後に理論の特徴と看護への活用についてレポート提出を課題とした。 ②授業の質の評価では、項目別に「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」4.6、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」4.4、「説明は理解しやすいものであった」4.1、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表など学生が参加する機会」については4.4であり、「質問を受付、回答する」4.4であった。グループ学習は導入しなかったが、今後は意見交換や発表の機会を設定することが課題である。 ③学習量の評価では、予習・復習に取り組む学生の割合は少なく、他の科目の課題が多いという理由で、課題以外の学習に取り組めていないことがわかった。今後は、課題について検討する。 ④欠席する学生やレポートが未提出の学生もいたため、個人指導が必要であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習の到達目標は全体的にやや達成できたと考える。 今後は、受講者の人数により、可能な範囲でグループ学習・発表の機会を作り、主体的学習がすすめられるように、課題提示と説明を工夫する。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
診療関連技術論演習	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「必修科目」であり看護師国家試験にも毎年出題される科目である。また臨床現場においては看護師による医療事故事案が最も多い「診療の補助」業務に値する科目のため、看護師国家試験出題基準と医療安全を加味し授業を構成した。演習科目のため感染には特に留意する必要がある、このため講義は座席指定を行い一定の距離感を確保することに努めた。また演習はA・Bクラス別に行い密を避け、また入口出口を設置し学生が交差しないよう配慮した上で、日々の健康チェックシートの確認、入室時の体温測定、マスクとフェイスシールドの装着を徹底し演習を行った。これによって演習による濃厚接触やクラスターの発生は認めなかった。授業はカテゴリー別（呼吸の援助、注射など）に行い、講義の翌週に演習とし、この間技術の自己学習が行えるよう動画視聴を取り入れた。実技試験に関しては、告知から試験までに練習時間を設け、自主練習時は学生支援と感染防止対策の観点で教員が常時サポートを行った。クラス別演習の利点は教育指導の行いやすさにあるが、同時に学生の演習時間は短くなるという欠点が存在する。このため単に「看護技術実技試験」は単なる技術試験の意味あいだけでなく、基礎的知識と思考判断力、コミュニケーション能力、グループダイナミクス能力の向上を図ることも加味し、実技試験はペア制とし、また方法も技術試験と、医療安全の観点から知識や根拠を問う口答試問も取り入れた2階層指揮試験として実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、定期試験60%、実技試験25%、ポートフォリオ提出10%、授業貢献度5%の総合評価とした。最終成績の平均値は75.94±8.23で昨年度の74.96±9.32を上回った。最高は92点、最低は47点で昨年度とほぼ同じ状況である。定期試験に関しては今年度は対面方式だったため、昨年度のリモートによるテストと一概に比較はできないものの、2021年度は75.94点に対し、今年度は68.83点と低いため知識理解は「やや達成された」と評価する。しかし実技試験に関しては、大多数の学生が空き時間等を有効活用し、技術練習や口答試問対応をペアで協力して行った結果、平均点21.5点と高い成果となった。またポートフォリオの提出も全員が期限を遵守し、演習記録等の学びも詳細に記述していた。このため思考判断と態度は「達成された」と評価する。成績の内訳は、秀4名(4.1%)、優31名(31.6%)、良42名(42.9%)、可17名(17.3%)で、秀は昨年と比較するとやや減少したものの、優・良の率は増加し可は減少している。また再試験対象者4名も休学者を除き全員合格している。学生による到達度自己評価では全10項目において平均値は4.2以上で、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6と最も高く、左記以外の項目もほとんどが4.4～4.5と高い達成度自己評価となっている。しかし、学習量に関しては予習・復習を行っていない、情報や図書館の利用はないという学生が一定数存在もしている。これは他の授業（主に看護過程論と思われる）のグループ演習が同時進行で行われており、それによる時間や余裕のなさが影響していたと思われる。よって全体を通しては達成されたと判断する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「診療の補助」の基本的知識と技術の基本となり、看護実践の基本に位置づけられるが、診療の補助ということで、生活援助技術論よりも高い専門的知識と技術が必要である。よって基礎看護学実習Ⅱの前の2年前期に位置付けられていることは妥当である。しかし、授業単位は1単位のため、時間的にも限りがあり、その中で高度な診療関連技術を習得するのは難しかったといえる。2023年度入学者からのカリキュラムでは2単位となるため、今後の授業体制構築に努力する。知識の定着面においては、国家試験問題の出題基準に則って構成したため、内容の妥当性は保証できたと考えるが、「診察・検査・処置における介助技術」に関しては、疾病の知識が必要となるため、「成人看護学」または「看護のための臨床検査」等との協力・連携が必要と考える。学生の到達度自己評価においてもすべて4.2以上を示しており内容的妥当性はありと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの授業の質評価は、全項目が平均値4.3以上で、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.5、「説明は理解しやすいものであった」4.4の評価より、授業構成や方法は学生の迷いの少ないものとなったと思われ、医学的要素の強い科目ではあるが、学生の理解を深めることはできたのではないかと考える。また多くの学生が学習量の自由記載で「ノートにまとめる」「自分で調べなおす」「動画やインターネットを見て理解を深める」「家でも技術の自主練習を行った」などの自主学習にも取り組んでいた。学生の意見にあった「必要な持参品や新規購入品に関する連絡を早め」に関しては、正直思い当たらない。授業は木曜日の3・4限だったため、授業に関する案内は火曜日の午後にアップされるよう調整を図っていた。また演習も基本的には医療器具を使用するため持参品は少ないが、演習は講義の翌週に行っていたため、講義の際に翌週に必要な物品（個人使用の時計など）の説明は行っていた。今後も時間に余裕をもった情報提供には留意していく。次に時間配分に関しては学生の戸惑いがないように今後はさらに注意していく。担当教員への意見は2件のみであり、よって授業の進め方に関しては学生にとっても、まずまずの効果性はあったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の達成度自己評価は、全ての項目において4.2以上、また質評価においても4.3以上の評価であった。一定数の割合で予習・復習を行っていない学生は存在するものの、学習量の評価には38件の取り組んだ学習の自由記載を認めた。これは今年度は講義、演習、動画視聴、そして実技試験と複数の方法で学びを深める支援をおこなったことも要因としてあると考える。成績の平均も75.94±8.23点で同等の授業構成であった2019年以前と比較しても大差はない。また実技試験の成績平均も25点中21.5点と高く、昨年度よりも可の学生が減少し、優・良の学生が増加していることから、学生が演習科目を効果的に学習していることが伺える。ポートフォリオの内容を確認しても、各演習記録に則って丁寧に振り返りを行っている学生が多くみられた。よって授業の質はある一定のレベルで担保できたと考える。今後もこれらを維持できるよう、アクティブ・ラーニング等の学習を取り入れ、学生が能動的に学びを深めることができるよう工夫していきたいと考える。

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	当該科目は「必修科目」(100.0%)であり、「資格取得に必要」(26.9%)な科目である。この2つを受講動機とする学生が殆どである。それ以外に「関心のある内容である」(15.4%)、「単位数を確保する」(14.1%)を受講動機とした学生が全体の凡そ6割(56.4%)、他に「GPAをあげる」(12.8%)、「友人が履修している」(1.3%)を受講動機として挙げた学生が1割程度いた。クラス全体の印象として、各教員とも、学生の本授業への関心度について、昨年度のそれと比較してやや低いとの印象をもっており、主体的学習者としての学修への取り組みについては、自主性、積極性という点で課題が残った。 授業は、①Google Classroom経由の事前の情報提供（授業計画・事前課題の提示、講義資料の配布、事例（紙上患者）紹介、模擬カルテによる患者情報の提供など）を基本に、②学生5～6名で編成したグループによる学習活動を軸に、教員5名が各3～4グループを担当して進めていった。途中、③授業計画に挙げた学習目標とグループワークの進捗状況に応じた講義を組み入れながら、学生による主体的学習活動を支援していった。毎回、授業後には④各グループのワークの振り返りと進捗状況の確認、学生個々の理解度を確認・把握するために、教員間のミーティングを実施し、状況把握と指導上の情報共有に努めた。授業終盤には、グループ間に緊張感を持たせること、またケア実践への関心意欲を高めることを目的に、各グループのパフォーマンスの機会として、⑤学習成果発表を行うとともに、その後のグループ間ディスカッションを通して学習の深化を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された	

（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	筆記試験の平均点は66.4点で、昨年度を10ポイント以上下回っていた。筆記試験で標準レベル以上の者は61/95(92/103)名、64.2(89.3)%であった。うち理想レベルに達した者はわずかに10/95(53/103)名、10.5(51.5)%と少なく、「秀」評価は一人もいなかった。反対に、努力を要する「可」レベルの者は、25/95(9/103)名、26.3(8.7)%と、昨年度の3倍増であった。筆記「不可」の者は5/95(2/103)名、5.3(1.9)%、コロナ禍での「やむを得ない事由による欠席」により追試験となった者も3名いた(カッコ内は昨年度)。例年、筆記試験は同レベルの問題を出題し【知識・理解】を問うているが、今年度は昨年度の結果を10ポイント以上下回り、筆記試験の結果は「標準レベル」にも達していないため、【知識・理解】の教育目標は十分達成できたとは考えにくい。昨年度、標準レベル以上の学生数がクラスの半数を占め、筆記試験「不可」となった者もわずか2名(1.9%)と少なかったことを考えると、今年度【知識・理解】の目標達成状況については、「どちらともいえない」と判断した。 当該科目の最終評価は、筆記試験(50%)、個人学習・レポート(20%)、学習成果発表(20%)、学習貢献度(10%)による総合評価としている。従って、最終評価としてのクラス平均は71.5±6.81(78.6±6.61)点（最高84(93)点、最低53(61)点で標準レベルに達していること、当初科目履修登録した受講生95名のうち、開講直後より長期欠席し受験失格となった学生1名及びメンタル不調により再試未受験のまま休学となった学生1名の計2名を除く93名が履修を修了した。最終成績の内訳は、秀 0名、優 10名、良 54名、可 29名で、受講生95名(再履修者2名を含む)中93名が2022年度当該科目の履修を修了、休学中の2名が再履修となった。以上の結果より、知識理解（DP1)の到達度を「どちらともいえない」、思考判断（DP2)の到達度を「やや達成された」、態度（DP4)については、グループワーク等の学習貢献度や学習成果発表時の取り組み等を参考に「やや達成された」とした。 学生による授業評価アンケートでは、到達度自己評価の「自分なりに目標を達成した」について、「かなりそうだと思う」47.4(45.2)%、「わりにそうだと思う」33.3(38.7)%が全体の80.7(83.9)%を占め、「まあまあそうだと思う」17.9(15.1)%を合わせると、学生の98.6(99.0)%が「達成できた」と自己評価しており、前述した各教員の全体印象や成績評価の実態 {秀 0名、優 10名(10.5%)、良 54名(56.8%)}との認識のずれを感じてはいるものの、全体を通しての教育目標は「やや達成された」と判断した。 今年度も、コロナ禍での「対面」授業を円滑に実施するために、全体講義は3密を避けて大教室で座席指定し、グループワークも担当教員別に比較的大きな6教室を確保して行った。毎回の進捗状況の確認、事前/事後の打ち合わせを密に行うなど、科目責任者として、教員相互の情報交換・情報共有を図りながら、一貫した方針のもとでの学修支援に努めようと努力を続けてきたが、学生の「担当教員への意見」には、「担当教員によって格差がある」「言っていることが違う」「先生によって指示内容が違う、記録物の提出頻度が違う、やることが統一されていない」等々、苦言を呈する意見・記述が複数みられ、複数教員での指導の難しさを再認識させられるとともに、学習支援の在り方にも課題が残った。
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 ②DP, 行動目標から見ての内容妥当性 シラバスに記載した【知識理解】【思考判断】【関心意欲】【態度】【技能表現】それぞれの行動目標について、授業評価アンケートより、学生は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5/5.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.4/4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3/5.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/5.0)と、全てにおいて学部、学科の「演習」の到達度自己評価を上回っていた。全体として「学生が達成すべき行動目標」について、学生は「自分なりの目標を達成した」(4.3/4.0)と自己評価しており、DP, 行動目標から見ての内容妥当性も確保できたと考えている。 以上の結果をふまえて、学生の目標達成状況については、全体を通して「やや達成された」、知識理解 (DP1)「どちらともいえない」、思考判断 (DP2)「やや達成された」、態度 (DP4)のみ「やや達成された」と判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は例年と同じく、グループワークとその進捗に合わせた講義の組み合わせで行った。毎年、事前学習課題への取り組みとして図書館を利用する学生は多いが、今年は図書館利用 {61.5%(75.8%)}, 学術データベース利用 {44.8%(51.5%)}とも、昨年度を1割程度下回っていた。一方、インターネットのHP利用者数は年々増加傾向にあり {87.2%(70.7%)}, 容易に手に入るネット情報に依存し、情報の内容妥当性やデータの信頼性・正確性が保証された確かな情報の取得を軽視する傾向や学生の認識・判断・行動の安易さは気になることであり、情報リテラシーの強化が求められる。 授業の質評価においては、5項目中「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.5/5.0)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.5/5.0)、「説明は理解しやすいものであった」(4.4/5.0)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.3/5.0)、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.3/5.0)と、いずれも平均値は昨年度を上回っていた。自由記述欄には教員への不満や批判の記述が多かったが、授業評価においては、教員の日々の関わりや働きかけに一定の理解が示されたと考える。【知識・理解】の目標達成に繋がったかには課題が残った。 学生の【意欲・関心】については、学生の自由記載欄を見ても、昨年度ほどの自主性、主体性、積極性は確認できなかった。学生の【意欲関心】【態度】をどう前向きなものに変えられるか、次年度に向けての課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートより、科目履修後の学生は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.5/5.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.3/5.0)、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」(4.4/5.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.4/5.0)、「職業選択の参考になった」(4.4/5.0)として「自分なりの目標を達成した」(4.3/4.0)と自己評価していたことから、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」としての知識理解は、筆記に課題を残したことから「どちらともいえない」と、思考判断、意欲関心、態度については「やや達成された」とした。技能表現についても、学習成果発表が「概ね達成された」状況であったことと学生の自己評価を勘案し「やや達成された」とした。 授業の質評価においては、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.5/5.0)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.5/5.0)、「説明は理解しやすいものであった」(4.4/5.0)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.3/5.0)、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.3/5.0)と、全項目4ポイント以上の評価であった。以上より全体を通しての評価は「やや達成された」とした。自由記載欄の教員への意見・要望は、前向きに次年度に活かしたい。 看護師の思考の基盤となる「看護過程論」に対し、到達度自己評価を「自分なりに目標を達成した」とした学生は、アンケート回答者78名中77名(98.7%)であった。その内訳は「かなりそうだと思う」(47.4%)、「わりにそうだと思う」(33.3%)が全体の80.7%、「まあまあそうだと思う」(17.9%)も含めると、授業評価アンケートに回答した78名の学生については、当該科目で達成すべき学習目標は「概ね達成できた」と考える。しかし、例年と違い、授業評価アンケートに「回答しない」学生が17名もいた。Googleフォームを使ってのオンライン調査に対し、応じない学生が20名近くいた事実は驚きであり、ここでも学生の【関心意欲】の低さが垣間見えたように思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機から見ると「必修科目である」100%、「資格取得に必要なものである」27.2%、「関心のある内容である」25.0%であり、必修科目である事から受講しており、多くの学生が、関心をもっていない状況であった。そのため、具体的事例や動画を用いる工夫をし、学生の関心をひき、理解しながら知識を定着できるようにした。 ②知識習得とその理解が必要となるため、定期試験の他に小テストを6回実施した。また、レポートを課し、新聞やネットニュースなどから自分で調べること、現在の子どもを取り巻く環境や社会について興味を持ち、理解を深めるようにした。 ③講義の理解状況を把握する目的と、学生自身が講義に学びや考え、疑問などを持ちながら参加できる目的として、講義終了時に毎回、「学び票」を記入するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価な平均値は73.7点であり、75.2%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、そのうち理想的レベル（80点以上）に達した学生は31%であった。再試対象者は4名、やむを得ない事由での追試対象者が2名であった。追再試を実施し、全員が合格した。試験の平均点は41/60点（得点率69%）、小テストの平均点は22/30点（得点率73%）、レポート9/10点（得点率90%）であった。DP1の平均点は18/25点（得点率72%）、DP2の平均点は59/75点（得点率78%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した4.2"、"新しい知識など得ることができた4.5"、"専門分野について課題を検討する力を得た4.4"、"学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4"であった。この結果から、意欲を持ち学ぶことはでき、知識・理解の習得ができたと考える。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準の明確さ4.6"、"課題の明確さ4.6"、"説明の理解しやすさ4.6"、"質問を受ける機会を設けていた4.3"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が4.3%、課題以外に学習に取り組んだ学生が58%であった。 以上の結果はより、①において小テストの得点率が高いことから、8回の講義中6回の小テストを行ったことで、ほぼ毎回の復習が必要となり、その結果小テストのための学習はおこなえていたと考えられる。しかし、試験の結果は、小テストと難易度は変わらないにも関わらず、小テストに比べ得点率が低いことから、知識の定着にいたっていないことも考えられる。学生からは、「わからないところをノートにまとめた」、「動画などを見て理解を深めた」などの意見がある一方、「復習してない」と回答している学生もあり、学習を主体的に取り組む学生と、取り組んでいない学生の学習量に差が出ていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、看護の実践の応用のために必要な知識を養う科目として、学生の自己評価からも2年次で学ぶ内容としては妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 科目内容は、小児看護の基盤となる科目であり、必修科目、資格取得のために必要である科目とする。学生からは「知識を確認、修正し、新たに得ることができた」「小児看護に興味をもった」などの意見があり、講義内容は妥当であったとする。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であるとする。しかし、知識の定着に至っていないことも考えられるため、講義内容の見直しや、時間配分の検討をする必要があるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義内容は教科書と毎回の学生の学び票を参考に、学生が理解しやすい言葉を選んだり、言葉の説明だけではわからないところは、動画やイラストなど視覚的に理解できるように工夫した結果、学生から「理解しやすかった」などの意見や試験などの結果からも授業の進め方は概ね妥当だったとする。 ②学生からは「コミュニケーション力や表現力を多構えることができた」3.5、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、学生が参加する機会が作られていた」3.5と学生が講義に参加している実感が低いことが分かった。講義中に学生が発言したり、発表する機会を設け、学生が主体的に参加できる工夫をする必要がある。 ③試験については、知識の理解と定着のためには、繰り返し復習できるよう、小テストの点数配分を減らしたり、小テストのタイピングや範囲を工夫した。しかし、小テスト平均点は22/30点（得点率73%）であったが、試験は41/60点（得点率69%）であった。試験は国家試験形式や記述問題としたが得点に繋がらなかったことから、知識の定着には至っていないとする。当科目は知識を修得する科目であり、範囲も広いことから、今後も知識を定着させるような工夫が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目を運営する中で、知識を提供することが中心となっていた。学生の理解は概ね目標達成できていた。今後は、学生の発表や発言、質問などをする時間や機会を設け、学生参加型の講義形式をとり入れていくことが課題である。また、試験方法なども検討し、学生が繰り返し復習し、知識の定着につながる様な学習形態を考えていくことも課題である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機から見ると「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」40.7%であり、資格取得のために受講しており、また、「関心のある内容である」学生は39.5%であった。小児看護学概論や小児看護方法論を通し、関心をもつ学生も少なくない状況ではあるが、子どもと接する経験が少ない学生や小児看護現場をイメージできない学生もいることから、まず子どもや小児病棟をイメージできるように動画や事例を用いることで、学生の興味をひくように工夫した。興味関心を持ったうえで、これまでの知識を活用し、事例の患児・家族に看護介入する方法を思考するよう、援助方法の実際などについても具体的に説明した。学生が苦手とするアセスメントについても、事前課題として、講義前までに自己で調べ考えてから講義に参加すること、講義内で一例を示しながら理解できるように講義を組み立てた。また、今年度は、対面での演習が可能であったことから、アセスメントまでは個人学習、看護計画立案をグループワークとすることで、看護計画立案を通して、小児看護を理解できるよう講義を組み立てた。 ②担当教員2名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。また、学生への指導内容については、教員間で統一をはかった。 ③学生の看護技術習得を目的として、教員だけで指導するのではなく、すでに技術の習得をしている4年生にも技術演習に参加してもらうことで、質問しやすい環境をつくり、個人のスキル向上ができる指導体制をとった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は69点であり、標準的レベル(70点以上)に達した学生は49%、そのうち理想的レベル(80点以上)に達した学生は8%だった。再試験対象者は1名、やむを得ない事由による追試験対象者が2名で、全員が合格となった。試験の平均点は15/20点（得点率75%）、小テスト6/10点（得点率60%）、レポート33/50（得点率66%）、発表15/20点（得点率75%）であった。DP別の成績は、知識理解の平均点は10/15点（得点率67%）、思考・判断の平均点は24/35（得点率69%）、態度の平均点は34/50点（得点率68%）であった。 ②学生の到達度自己評価の平均値は4.1、"知識を確認・修正・新たに得ることができた4.2"、"専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.2"、"専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた4.2"、"コミュニケーション力や表現力を高めることができた4.1"であった。 ③授業の質評価は、"レポートなどの評価基準の明確さ4.3"、"学習の範囲や課題の明確さ4.4"、"話し合う、発表するなどの機会があった4.4"、"学生の質問を受け付け答える機会があった4.4"だった。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が50%、課題以外に学習に取り組んだ学生が39.5%であった。一方で、1回30分の予習・復習を0～1回とした学生が21.5%であった。 ⑤図書館利用率は74.4%、学術データベース利用率は29%、インターネットなどの利用率は84.8%だった。 以上の結果より、概ね標準的レベルに達しており、自己評価からも専門分野についての学習意欲につながっていると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 看護の実践の応用科目であり、小児看護の現場で活用できる知識・判断・態度を養うことを目的としている。関心をもって受講した学生は39.5%であったが、「学びを深めたい」とした学生の平均値は4.2であったことから、講義内容は、小児看護を実践する事に意欲が持て、科目の位置づけとしては妥当であると考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、DP別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考え。しかし、予習や復習を4から5回以上行った学生は50%であり、1回30分の予習・復習を0～1回とした学生が21.5%であった結果から、講義に合わせ、課題や小テストを予習・復習の機会としたが、十分に伝わっていないと考える。また、学生から「課題で精一杯」「他の科目で時間がない」などの意見もあるため、他の科目とも調整し、学生が十分な時間を用いて思考できるよう課題提出時期や課題の量も検討する必要がある。 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①コロナウイルス感染症流行を予防する目的と学生個々の理解度を図るために、看護過程における、アセスメントする部分の学習は個別に行い、レポート提出し、個別に指導した。また、小児看護の方向性を講義することで、概ね学生は理解することができたと考え。看護計画については、グループワークを用いることで、理解を深めていくことに繋がったように考える。しかし、行動目標の知識・理解の得点率68%、態度の得点率は68%と標準的レベルにとどまっており、理想的レベルにするためには、発表の機会を多く作る等の学生参加型の演習の工夫をし理解したことを表現することで、知識・技術の習得が行えるようにすることが必要であると考え。また、他領域の課題提出時期や課題量なども考慮し、学生が十分思考できる体制を考える必要があると考える。 ②図書館の利用は74.4%であり、学術データベースなどを用いていた。今後も、現場の看護実践に対し、より興味を持てるような講義内容の工夫も必要であると考え。 ③試験に関しては、レポートのみでなく、試験や小テストでの学生個々の理解を確認することは妥当であったと考える。今後も、看護の実践につながる思考・判断・態度を考慮した学習方法と評価方法を考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護実践の応用をするために、知識、思考・判断、態度を学ぶ目標は概ね達成できたと考え。学生に小児看護に興味を持ち学びを深めたいという意欲も高めることができたと考え。限られた人数の教員で、学生個々の知識・技術の習得を促すためには、今後も工夫が必要である。学生が、看護の実践に興味もてるよう、刺激し、主体的に学習できるように促す具体的取り組みを今後も検討する必要がある。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生にとっては必修科目であるため、興味の有無にかかわらず受講するようになる。限られた時間で教科書1冊の分量であるため、配布資料の工夫をしたり、視聴覚教材の工夫をするなどして、重要なところは特に重要であることを示すようにした。特に学生支援対象の学生さんのためにスライドには教科書のページ数も記載し、大事なスライドには「大事」等の表示をした。また、学生が興味を持てるように調べる課題を提出した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的にはほぼ全員が合格することができたが、「大事である。」「覚えておくように」と言ったり、資料にも大事だと記載しているにもかかわらず、覚えていなかったり、勉強せず、再試を受ける学生が例年より多かった。また、授業の欠席者がコロナ前に比べ、多く、欠席をしている学生がおおむね成績が低い傾向にあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、カリキュラムに記載されている位置づけに沿って講義を行った。国家試験出題基準等も意識し、講義を行った。内容的には妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業をゆとりをもって実施したいのであるが、教授する分量が多いので、内容的に削れる部分は削るという作業をする必要がある。また、いかに学生が興味深く聞く授業を展開できるかが課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業中、重要な個所は重要であると示したり、確認したり、授業初めに前回の授業のポイントを示したりすることで学生の成績は向上しているが、課題としては詰込みの感があるため、不要な部分は削るという作業を行う必要がある。対面授業に慣れていない学生対象に、いかに興味をもって受講してもらうかが課題である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、母性看護学方法論に引き続き、母性看護学実習に必要な看護過程や看護学技術の方法を習得することを意図した授業展開を行っている。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格に必要である」47.2%、「関心のある内容である」33.3%、「単位数を確保する」22.2%、「GPAをあげる」2.8%であった。本科目は必須科目とあるとともに資格取得に必要な科目である。 ②看護過程と看護技術の演習を計画した。看護過程については、ウェルネス看護診断を用いた看護過程の方法を解説し、事例を用いて看護過程の展開（情報収集から全体像の作成、看護診断・看護目標・看護計画の立案）を行った。学生の理解を図るために、小グループに分け、各グループに担当教員を配置し質問などをしやすい環境を整えた。教員は看護過程について添削を行い、個別に指導するなど工夫をした。看護技術においては、母性看護における基本的な看護技術を習得できるように、事前に看護技術の動画で予習できるようにし、実際の演習では少人数で各ブースを回れるように工夫した。また、技術テストを行う際に、練習時間を設けたり、いつでも動画で技術を確認できるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.89（±11.06）であり、再試験対象者は数名であった。DP別にみると、知識理解に関しては77.5%、思考判断に関しては78.5%、態度に関しては79.4%の標準レベルの達成度であり、真面目に演習に取り組むことができており、概ね目標は達成されたと考える。 学生による授業評価の到達度自己評価においては、10項目の平均値3.9～4.3点、中央値はすべて4.0（点）であり、概ね肯定的な評価であった。「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は4.0点であり、学生自身は本科目において自分なりの目標を概ね達成できていると考える。今後も学生が、知識理解を身につけ、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、学生は意欲的に学習に取り組み目標を達成できたのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の応用・展開」に属し、母性看護領域における対象者に必要なケアを提供する知識と判断、態度を身につけることが必要とされる。学生の学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.9～4.3点であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」100%、「資格に必要である」47.2%、「関心のある内容である」33.3%、「単位数を確保する」22.2%、「GPAをあげる」2.8%であった。ほぼ全員が講義や演習に真面目に取り組んでいた。またすべてのDPにおいて、ほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であると考え。 以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は「看護実践の応用・展開」に属し、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、講義内で教員サポートのもと、演習課題に取り組めるように工夫した。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値3.8～4.4点、中央値4.0～5.0点の評価であった。成績においても、標準レベルに達している状況をふまえ授業の進め方は妥当だったと考える。また、学生の個別的な意見にもあるように、看護過程においては個別対応を行ったこと、看護技術においては動画などを用いたことも効果的であったと考える。今後も学生個々の理解度なども確認したうえで母性看護に必要な知識・思考判断・態度を習得できるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の応用・展開」に属しており、授業評価アンケートの到達度自己評価においては、10項目の平均値3.9～4.3点、中央値はすべて4.0（点）であり、「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は4.0点であり、学生自身は自分なりの目標を概ね達成できていると考える。成績においても教育目標は達成できている。今後も学生の意見を取り入れながら、総合的な力が向上できるよう講義内容を検討していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人看護学概論	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次後期に開講される専門教育科目の成人看護学方法論の導入科目として位置づけている。成人看護学の対象をライフサイクルの中で青年期から向老期に至る過程を成長・発達・成熟の段階として概説するとともに、本年度、成人年齢が18歳となり改めて「成人」を捉え直す機会とした。社会と生活との関連、また保健政策、疾病の特徴など多角的な視点で捉え、看護実践の応用のため関連する理論を意識し教授した。1年次の「保健統計学」での学びを再起し学生の調べ学習による授業参加を促し発表する機会を設けた。調べ学習はレポート課題として評価した。授業内容が多岐にわたるため、学生の学修進捗を確認した。授業において「コミュニケーションや表現力を高める」という項目については自己評価が「3.2」と依然と低い結果である。現状の制約の中で、継続的に改善を行う必要がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生96名が履修し、成績評価の平均点は72.4点(SD6.4)、理想的レベル(80点以上)は14名(14.6%)で、最高点は88点であった。平均点は昨年と比較し1.7点の減、また理想とする到達レベルは8ポイントの減少がみられた。成績評価において全体の43%が70点台を占めており、目標はほぼ達成はされたと考える。成人看護概論は対象理解の基本であり、内容は抽象的と捉えられがちである。学生の授業の質評価では、学習の範囲や課題は明確であり、質問の機会をもうけ、それに答える機会があったと評価されている。DP別の評価では【DP1-2】82.9%【DP2-1】48.8%【DP3-1】48%であった。既習の知識が思考・判断として活用できるよう学生参加型の教授を工夫する必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、必修科目である。ライフサイクルの成人期にある対象理解に重点をおき、対象に応じた看護実践を展開するための導入科目として位置づけている。受講動機として「資格取得に必要である」が25.4%、「関心のある内容である」が9.9%であった。「関心」において昨年より微増が認められるが特別な学習動機は把握できない。成績評価は平均点72.4点、理想とするレベルが14.6%あり、全体的には一定の結果を得ている。内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 本科目の行動目標として①成人期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健。医療、福祉システムの概要、④成人期の健康障害の特徴、⑤成人期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期に活用できる理論・モデル、を掲げ、これらを述べる事が出来るとしている。再試験対象者はいなかった。動機づけと実践応用に向けた思考の深まりは今後の課題とし、目標は概ね達成されており妥当とする。 ③まとめ 以上の状況から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は予習して臨めるように、意図的に課題(調べ学習)を課し、各自がレポートすることで、学びにつながっている。授業の質評価では各項目の平均値が3.8～4.1であり、さらに上方移動する努力と興味・関心を抱き、意欲の向上に向けた取り組みが必要である。また、学習量の評価では予習・復習とも「0」と答えた学生が26.8%いること、課題以外の取り組みを行っていない学生は57.7%いること、また「図書の利用」については71.8%が行っていない現状であった。一方、インターネットの利用については80.3%が行っており、身近なネット検索という学習姿勢が伺える。主体的学習への動機づけと促進に対する働きかけが必要とする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は専門教育科目の成人期看護学の導入科目として最終的な成績や観点別の到達度とも一定の成果を得た。また、コロナ禍ではあるが91.5%の学生が到達度自己評価で肯定的な評価をしており、教育目標はほぼ達成できたと考える。後期授業において知識をもとに思考・判断の深まりを強化していく必要がある。また、次年度は学生の思考の方向性を把握し、主体性を促すような授業設計を検討することが課題である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人看護学演習	3	前期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①成人看護学演習は、2単位（30コマ）で既習の形態機能学、疾病学、看護過程論、成人看護学方法論などで学修した知識、根拠をもとに慢性期、急性期における看護過程および看護技術を修得し、3年次後期の実習にて実践するための科目である。 ②講義・演習を組み合わせで1回2コマで実施している。授業時間90分の15回で組み立てを行った。 ③1グループ4～5名、22グループを4人の単位認定者と助教・助手で指導を行った。 ④看護過程のグループ評価、技術の個人評価および小テストにて看護過程の理解を確認した。小テストでは、慢性期事例終了後と急性期事例終了後の2回実施し、知識の確認を行った。 ⑤反転授業を行った。講義までに授業進行に合わせた課題を個人ワークを行い、グループワークでディスカッションにて疑問の解決を行った。また、昨年度まではグループファイルの提出を求めたが、個人ファイルの提出を求め、個人の成長を促した。 ⑥技術に関しては、昨年度まではモデル人形を用いたが、本年度は4年生が模擬患者を演じてリアル感を持たせるように工夫を行った。 ⑦学生の受講動機は必修科目であるが100%、資格取得に必要が次いで多くみられ、「関心のある内容である」は18.9%（昨年度11.5%）であった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①106名が履修を行い、評価は、総合評価の平均値は76.6点（SD8.6）で昨年度（69.4点SD7.9）に比べて高くなっているが一昨年と同等であった。最高点90点、最低点48点であった。不可5名で、再試験にて4名は可とした。結果、83.0%（昨年度46.2%）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は42.5%（昨年度8.8%）だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識・理解）は、10点中6点（得点率65.0%）、DP2-1は、70点中52点（得点率74.8%）、DP3-1および3-2は、10点中8点（得点率86.0%）、DP4-1は、5点中4点（得点率87.5%）、DP4-2は、5点中4.9点（得点率97.7%）であった。 ③学生の到達度自己評価の平均値は、4.2（4.3-4.1）で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「必要となる技術を身につけることができた」で最も高く、昨年度に比べ専門分野のさまざまな課題に関する項目の自己評価が高い傾向があった。 ④授業の質評価の平均値は、4.2（4.5-4.0）で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が最も高く、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」で、昨年度と同様の傾向であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、90.5%で、7～10回以上した学生が、77.4%・71.7%であった。一方、0回と回答した学生がそれぞれ9.4%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、37.7%（昨年度45.9.5）という結果であった。授業外の課題については、「毎回、課題があるためそれ以外については行っていない」という自由記載があった。反転授業を行っており、個人が毎回の課題を行うことでグループワークが円滑に進み看護過程の理解に繋がると考える。 ⑥図書館等の利用では、図書館の図書、雑誌を利用した割合は、79.2%、インターネットやホームページを検索し、利用した学生は92.5%と利用率が良かった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は既習の形態機能学、疾病学、看護過程論、成人看護学方法論などで学修した知識、根拠をもとに慢性期、急性期における看護過程および技術を修得し、3年次後期の実習にて実践するための科目である。科目の位置づけとして内容は妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、後期実習に向けた学修の修得につながったとする。 ②反転授業を実施しており、課題を個人ワークで行い、グループワークで理解を深めるようにした。昨年度まではグループで一つのファイル作成をさせていたが、今年度より個人ファイルの作成へと変更した。 ③本年度は定期試験ではなく、慢性期事例、および急性期事例終了後に、看護過程の理解を確認するために小テストを実施した。小テストは、グループワークでは見えにくい個人の理解度の把握に繋がった。また、個人で考え解くという思考の定着を確認することで、フォローアップを行うことに繋がった。 但し、本科目は、看護過程の小テストおよびグループワーク、看護技術の総合点で評価を行うために、基本的な看護過程が理解できていないにも関わらず、合格となる学生がいることは看過できない。今後、点数配分などを検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。昨年度よりも再試験者は少なく例年並みとなったが、基本的な解剖生理学、疾病学の知識、看護過程の理解が乏しいことが問題として挙げられる。 今年度は対面授業となり、4年生が模擬患者を担ってくれたことで、リアル感をもって技術演習を行うことができた。しかし、コロナ以前のように時間外で技術習得をする時間を確保することが難しく、技術試験を行うことはできなかった。 今後は後期での成人慢性期看護学実習および成人急性期看護学実習で、いかに本講義・演習での学びを活かしているか、臨地実習から学内へ戻った際に技術練習を取り入れるなど、学生の修学の確認をしていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①高齢者を理解するうえで、発達段階や人生、社会について知り、思考する態度を養うために、教科書や形態機能学や老年医学の知識や技術だけでなく、説明資料として有効な一般書籍や報告書、調査資料を吟味選択し、提示、解説した。 ②高齢者看護で修得すべき知識量は多く、国家試験と直結する情報が多いため、小テストを学期中に2回、定期試験、合計3回のテストと、レポート3回で評価することとした。繰り返し学ぶ機会は増えたと考える。 ③従来、書き込み式のプリントとパワーポイントを教材として用意していたが、学生の取り組み状況に差があり、特に書き込みは該当の教科書ページを指定しているにもかかわらず、何を書いてよいのかわからないという学生が複数いたため、ほぼすべてをパワーポイントに表示した形で、1ページ4枚印刷で直接メモを書き込めるようにした。資料についての不満は聞かれなかった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①最終評価は、平均76.6±8.8点、優37名、良39名、可18名となった。小テストは、資料持ち込み可能な選択式であったが、得点が振るわず、最終的に秀の学生がいなかった。例年に比べて、成績が不良である。 ②一方で、毎時終了時に提出されるフォームについては、学んだこと、印象に残ったことが、自らの言葉で詳しく書かれており、主体的な学びという点では達成されていたと考える。 ③レポートについては、調べたことが羅列されているものが多く、まとめ、整理、考察などが不足しており、全体的に思考にはつながった成果を確認することが難しかった。 ④毎時欠席者が5-6名あった、1限目開講であったのでその影響かと感じたが、2限目の母性看護学概論も欠席者が多く、定期試験不合格者が多かったと聞いている。どちらも専門科目であり、独力で学修するには難易度が高く、学生生活における学業の優先性に関して受講生の態度に懸念が残った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①授業構成の点で、加齢性の心身変化に関する知識を前期概論での比重を高め、後期の方法論につなげるようにしたため、DP1-2,DP4-2についての達成は高くなっていると考ええる。 ②書籍や資料の紹介など、老年看護の知識を適用しながら理解する教材を増やしたことで、DP2-1,DP4-1についても、達成は高くなっていると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①一部前期に修了しなかった社会保障制度等については、後期方法論の中で関連する社会資源や制度について教授することとしている。 ②8コマの中で、学生同士のディスカッションや意見を表明する機会を確保することは困難であるが、毎年行っている家族を対象としたアドバンス・ディレクティブに関する聞き取り調査の回答を、教員がデータ集計をしてプレゼンテーションするなどして、様々な人の意見に触れる機会を設けている点で、この科目の大きなプロジェクトの一つでもあるので、継続していく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①老年看護学の導入科目として、その基礎知識を習得でき、科目の目標もおおむね達成できたと考ええる。 ②毎時フォームに学生が回答している内容から、主体的な学びが確認できた。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①老年看護学演習では、グループワークではなく、必ず個人が老年看護学における看護過程の展開を経験することを優先的に考えている。アセスメントのパターンごとに、丁寧に解説をする、アセスメントに含めるべき内容を資料として配布することを毎回徹底して行った。また、提出された課題を確認し、優れたものを紹介しながら全体にフィードバックすることを継続した。 ②課題の解説とは別に、各パターンにおける看護問題に関連した実践的な看護技術、方法について、詳しい資料を提示して講義した。資料はすべてパワーポイントとして新しく作成し、将来的にも活用できる実践的な情報を豊富に含むものとした。実習病院として、小倉リハビリテーション病院、戸畑共立病院、小倉第一病院が予定されており、それぞれの患者、看護に対応できる事前知識は提供できたと考える。 ③事例課題の疾病を見直し、実習病院での看護過程に対応できるよう、新規の肺がん、慢性腎不全患者の紙上事例を作成した。 ④看護技術の実習は、実習室の確保が難しく、土曜日に2コマ開講し、ブース制で排泄援助、下肢血流評価ABI測定、入浴介助DVD学修、KYT危険予知トレーニング、義歯洗浄を行った。教員は3名と、限られた実習機器の制約が大きかったが、ワークシートの活用や事前の計画、打ち合わせにより、予定の項目を安全に実践することができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終評価は、81.5±6.5点で、秀10名、優57名、良32名、可5名であった。定期試験50%、看護過程等の提出物40%、参加態度10%の配点で、あらゆる学習課題で、優れた成績を修めた学生が多かった。定期試験では、過去に例を見ない完成度の高い回答が多く、看護過程や技術課題のワークシートなどの提出物も加筆修正を繰り返すなどして、努力の継続が見て取れるものが多かった。 ②授業評価では、事例が長い、課題が多いという意見も少数あったが、実際の患者では比較にならないほど複雑で、独力で看護過程を展開するのは困難な対象であり、臨地実習前の学修課題、学修量、内容とも適切であったと考える。 ③毎時提出するフォームでは、自己の取り組みに関する振り返り、講義内容についての学びが、自分の言葉で記載されており、主体的な学びにつながったものとする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP2-1は主に看護過程の展開で、DP4-2は看護過程の展開と看護技術演習で、DP3-2はすべての学修活動や試験で優れた成果、成績、努力の継続により達成されていたと考える。 ②新しい実習施設に応じた、紙上患者事例の作成、講義資料の作成など新たに取り組んだものが多く、教員としての負担は極めて大きかったが、実習前の準備状態を整えるために有効であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①2020年に成人看護学演習から分離独立した際、老年看護学アセスメントガイドを新規作成したが、情報収集やアセスメントをするうえで不十分な部分が多く、指摘や指導が多くなる状況があった。学生としても後から修正が必要となっており、アセスメントガイドを情報網羅的なものに変更する必要があると考えた。 ②Google Classroom上に提出された課題には目を通し、抜粋して全体にフィードバックしていたが、見てもらっていないのではないかとの懐疑的な指摘をする学生がいた。2年生前期の提出課題は、一つずつ押印して返却しており、そういう仕組みは心理的にも安心感があるのかなと感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①学生は、個人で課題に取り組み、課題作成、提出を経験することができ、負担は大きかったと思うが、多くの学生がすべての学修課題で優れた成果を得た。自己の成長や自信につなげて欲しいと感じる。 ②臨地実習では、対象患者の病態が複雑であり、看護が難しいことから、複数学生で患者を担当することにしており、そのためにも個人の力をつけておかなければ、グループでの取り組みに貢献できない可能性があるため、今後も個人での取り組みを継続する。 ③老年看護学アセスメントガイド2020については、老年看護学アセスメントガイド2.0として、内容を大幅に改変し、臨地実習と現2年生以降で既に活用を開始した。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業が展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。 ②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。また、作年度に引き続きストレングス理論を取り入れた。看護過程の展開とともに今年度は精神障害者の地域包括ケアを視野に入れ、社会資源の活用について調べ発表会を持った。 ③精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。 ④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。夏期課題は課さずに知識確認テストを実施し、知識の定着に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	やや達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は70点であり、再試対象は13名であった。93名(87.7%)が標準的レベルに達した。理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは33名（31.2%）であり、30%を超える学生がこのレベルに達した。成績の内訳は、A（秀）5.7%、B（優）が25.5%、C（良）が33.0%、D（可）が23.6%であった。 精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。また、問題解決思考にとらわれない考え方は他の身体領域とは違うため戸惑うことも多かったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。 学習到達度の自己評価の平均は4.12であり、「かなりそうだと思う」が36%、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」が62.4%を占めていた。授業への準備状況として、予習の時間0回が16.2(昨年12)%、復習の時間0回が20（前年15）%となっており、前年より学習時間が減少している。課題が忙しかった、課題以外の学習する時間がなかったという意見はあるが、提出率はほぼ100%であったので、授業時間以外の学習はできていたと思われる。新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、図書館の利用は58%（昨年41%）で少し増えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、リモート授業においてもグループワークで進めたことで、学生一人一人はよく学習し理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均は4.3であり、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が83.5%、「まあそうだと思う」が14%を占めていた。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開している。疾患の理解が難しいため資料の工夫等を重ねているが、今年度は理解が進んだようである。さらにわかりやすい解説をしていきたい。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点は、4.6で項目の中で最も高い評価であった。 グループワーク中心の演習であり、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションができ、参加型の授業ができたことは良かった。自分が住んでいる地域における社会資源の活用について発表会をすることもできた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生後期の専門知識と、3年生後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神看護の専門応用へとつなげていかなくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。課題の提出率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われる。アセスメントの資料をすべて配布してほしいという要望があるが、難解な箇所は配布している。資料にすべてのことが書いてあるわけではないので授業に参加し、思考の訓練をすることが課題であるとする。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	学生の受講動機を見ると、全員が「必修科目である」をあげている。在宅看護学は、他の臨床看護学と比べてなじみが少なくいが、「関心のある内容である」が18%いてくれたことは意外であった。在宅での看護というのはイメージがつきにくく、最初の動機からポジティブな学生が少ないことは例年ある事である。そのため、科目の目的・目標を共有するのではなく、まずは関心をもって取り組んでもらうため、最初の講義で、神経難病の療養者から西南女学院大学の学生へのメッセージのDVDを見てもらった。このメッセージによって心を揺さぶられ、積極的にとはいかなくても前向きに学ぶことを期待して進めていった。 積極的動機を増やすために、1～2年生のころから在宅看護が社会から期待されていることを伝えていきたいと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価は、レポート、定期テストで行った。最終的な成績は、平均点73.4点（昨年69.6点）であった。成績の内訳は、秀 1名（昨年3名）、優 26名（昨年11名）、良45名（昨年 29名）、可33名（昨年46名）、不可(放棄) 1名（昨年2名）であった。昨年に比べ平均点が3.8点高い。 学生の評価でも、「授業に参加するために1回30分以上の準備をどのくらい行いましたか」および「授業を振り返るために1回30分以上の復習をどのくらい行いましたか」で、全体の72%は1回以上の予習をしている。これらの積み重ねが学習成果（最終評価）につながったと考える。 学生の主体に任せると学習の取り組みや成果に差が出るため、課題を出すことで最低学習量が確保できる。しかし、3年生の前期は演習科目が多く課題が重なっているため、自主的な学習を期待したい。どのように興味を持たせていくか、私の大きな課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP1：知識・理解、DP2：思考・判断、DP3：意欲・関心を目標にしている。対象が小児から高齢者とすべてのライフステージである。疾患も多岐にわたっていて、長期の療養をしている人、障害を残している人、ターミナルの人と幅広い。到達度の自己評価では、「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」以外はすべて学科平均より低くなっている。在宅看護学には決まった看護技術があるのではなく、個々の対象に応じて試行していかなくてはならず、学生にとって学習成果が見えにくかったと思う。学生が達成感を得られる工夫の必要性を感じる。 一方、学生自身も社会に関心を持ち、日本の医療の方向性や看護に求められていることにアンテナを張っていてほしい。特に、在宅看護は対象の価値観や健康観が基本となるため、看護師が押しつけたり決めたり出来ないことから、明確な答えが存在しない。答えがないものを考えることは面倒であり不確実であるが、「看護には答えがたくさんある」という本質をとらえて、不確実なことを面倒がらずに考えるように伝えていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、対象や疾患がさまざまであることから、これまで学んだ各看護学の知識をもとに思考し、統合していく科目であり、既習の知識の定着が前提である。昨年は、「図書館の図書や雑誌を利用した」と答えてくれていた学生が2割あったが、今年は58%の学生が「利用した」と答えている。また、「インターネットを検索した」は90%の学生が「利用した」と答えている。しかし、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」では67%が「していない」と答え、自由記載では「課題で手一杯」「他の課題があった」「時間がない」という記載が多い。在宅看護学は社会の問題と深く関連しており、常に新たな課題が発生することから、現代的課題を紹介していき、身近な問題として自主的な学習に繋げられるように投げかけ続けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	受講者106名中、授業評価を提出してくれた学生は43名である。これまで、回答率がこれほど悪かった学年はなかった。このことをどう考えてよいか、何がこの回答率の低さに繋がったのか、ただただ悲しい。 在宅看護学はあらゆる年齢・あらゆる疾患・あらゆる環境を対象とすることから、明確な正解がない。むしろ答えがたくさんあり、どの答えが正しいかはその場ではわからない。しかし、明確な間違いはある。学生は明確な回答がないと不安に思ったり、多くの場合は答えがないことを考えたくないようである。いつも「どう考えたらいいのですか？」という学生の質問に、教員は「あなたは どう思う？」と答えたり、「何を、どこまですればいいのですか？」という学生の質問に、教員は「あなたは どうしたいの？」と答える。そのことで、在宅看護は「答えをもらえない」と憤慨する学生が多くいる。 答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、考えることを繰り返し説明したい。また、シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。 一方、学生に在宅ケアの興味を持ってもらう工夫をしていきたい。そして、大学生らしく主体的に自分で学習テーマをもって、図書館等を利用して学習してほしいと願う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3	前期	必修	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、「必修科目である」が100%、「資格に必要である」が43.5%であった。本科目は看護学科の必修科目であり、学生の選択の余地なく受けざるを得ない。特筆すべきは、「関心のある内容である」が21.7%（昨年4%）であったことである。授業を履修するにあたってシラバスを参考にした学生は74%（昨年65%）、あらかじめ授業を受ける計画を立てた学生は37%（昨年40%）であった。医療を取り巻く社会環境として在宅ケアの重要性が増しており、そのことを看護を学ぶ学生として捉えられていることが伺えた。 在宅看護学・在宅看護学演習は2コマ続きであるため、在宅看護学で理論や考え方を学習し、演習ではその知識を使って思考していく流れを作った。また、①在宅医療や介護についての社会問題を知る ②包括看護計画 ③在宅看護技術（教育技術・提供技術）の3つの柱で15回の授業展開をしていった。授業に興味をもってもらうため、資料で各演習課題の目標を示し、画像を使ったり、教材の工夫をしていったが、学生の受け止めと学習成果は厳しいものであった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点68.7点（昨年69.6点）であった。成績の内訳は、秀0名（昨年0人）、優 5名（昨年10名）、良 45名（昨年41名）、可56名（昨年41名）、不可(再試験未受験含む) 1名（昨年4名）であった。 本科目は、グループワークと個人ワークを組み合わせた形式をとる。しかし、科目評価はグループワークの成果物ではなく個人の成果を対象とし、加えてグループワークにおける個人の貢献度を評価している。このグループ貢献度の捉え方の違いによって、一部の学生から疑義があった。このことは、教員の説明不足から生じていることから、評価基準の明白な説明を心掛けていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、各看護学領域の知識を統合するもので、DP2：思考・判断、DP3：意欲・関心、DP4：態度、DP5：技能・表現を目標にしている。 ケアプラン・看護過程では、各自が展開できる力をつけるため、グループワークを取り入れながら、課題の提出は個人個人でするようにした。しかし、到達度自己評価では、すべての項目で平均点以下であった。他の看護学領域と違い、看護問題が見えにくく、看護計画も多職種連携のもとで包括的に立案する難しさがある。また、在宅看護学領域には決まった看護技術があるのではなく、個々の対象に応じて試行していかなくてはならず、学生にとって学習成果が見えにくかったと思う。学生が達成感を得られる返し方の工夫をしていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	在宅看護過程では、基礎看護で学んだ看護過程を基本に、在宅看護特有の情報やアセスメント、包括計画といった過程をたどる。基礎や成人看護学で学んだゴードンのパターンでない独自のパターンであることから、在宅看護過程の見本として「共通事例」を配布した。見本があることを前提に手順を説明し、授業時間内で質問に応えるべく教員でラウンドしたが、グループワークの進捗が遅く、質問がほとんどなかった。コロナ感染対策で教室を分散してグループワークをしたため教員相互で質問の内容やグループワークの状況を共有しながら進めていたが、自由記載の内容から、学生には教員が立ち話をしているように見えていたようであり、そのように捉えられていたことは残念である。 学生の授業の質評価はすべての項目で低く、中でも「説明は理解しやすいものだった」が最も低かった。また、自由記載では「先生によって言っていることが違う」とあった。教員4人で担当しているため、言葉の選択によって違うように聞こえるかもしれないが、演習の目的や内容、書き方については事前に複数回の協議とすり合わせをして指導にあたっており、授業中も質問内容を共有しているので、違うことを教えることはないと思っている。その場で質問や指摘してもらったら授業中に全体に説明することもできるので、気づいたことがあったら教えてほしい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講者106名中、授業評価を提出してくれた学生は46名である。これまで、回答率がこれほど悪かった学年はなかった。何がこの回答率の低さに繋がったのか、このことをどう考えてよいか、ただただ悲しい。 在宅の看護過程は、個性を大切にしたいオリジナルの看護計画を求める。学生は明確なパターンがないと不安に思い、書き方にこだわってしまう。「どう書けばいいのですか?」、「何を、どこまですればいいのですか?」という学生の質問に、教員は「あなたはあなたの方でどうしてあげたいの?」と答える。そのことで、在宅看護は「答えをもらえない」と憤慨する学生が多くいる。 答えがないものを面倒になってしまう学生の状況を受け止めつつ、個性を考慮したオリジナルを考えることを繰り返し説明したい。 最後に、評価について一部の学生から疑義があった。声をあげてくれた学生以外にも、同じ気持ちをもつ学生があったと思う。評価方法については配布物や授業中に説明をして、学生の要望も聞き、頑張った事を公平に評価するように努めていたが、全員に納得してもらえなかった。教務の第三者の審議で、評価基準と方法に問題はなかったとの見解をいただいたが、説明不足であったと反省する。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護研究	3	前期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生前期で看護学演習での課題、グループワークが多く負担であるとの例年の懸念から、今年度よりグループでの調査研究を実施するのを取りやめた。代わりに、個人で研究テーマ、課題を設定し、指定論文の文献クリティーク、指定論文の抄録作成、英語論文要約、自身のテーマに関する文献整理、研究説明・同意文書の作成、研究計画書の作成、フォーム作成の課題を課し、グループで質的データの内容分析を行った。それらをすべて評価対象とした。 ②これまで、グループ活動の取り組み方についての学生間の不満があり、特に遠隔で実施していた際には教員には十分把握できない面での学生間のトラブルは解消された。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①研究に関するすべてのプロセスを個人が体験したことは意義深かった。また、講義時間内に個人PCで作業を進めることができ、教員が巡回しながら指導できたことも大変良かった。 ②個人作業であったが、作業を教えあったり、成果をグループで発表するなどして、学びの共有が促進されたこともよかった。 ③学生時代に何かにこだわって調べ上げるという体験を目標に、学修方法を変更したが、到達度には個人差があったものと思われる。特に文献や資料を読み込み、整理して結論を述べることについて、成果物の質に差があった。 ④最終評価は、平均76.4±5.0点、優30名、良60名、可1名となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP1-2、DP2-1は、看護学の学修や臨地実習においても、研究知識の必要性が理解されたことがまずこの科目の成果であり、研究実践能力は、将来にわたって修得されるものと思われる。 ②DP4-3は、看護と研究の関連性や重要性が理解され、本科目の課題に取り組んだことからおおむね達成されたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①実際に調査研究を実施するには、講義時間内での完遂は不可能で、3年前期の負担を考慮すると、今回のような進め方が妥当であったと考える。 ②研究に興味を持ち、その必要性を感じ、学ぶ意欲を刺激するという意味で、負担は大きすぎず、与える教材は臨地実習や学生に身近なものを日々工夫する必要がある、今回は心不全、胃がん、低出生体重児など学生に理解しやすい研究例を提示できた点が良かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①自分が調べたいテーマを探しておくことについて、初回授業から説明していたが、学生は他の課題の優先順位が高く、1つのことに長い期間をかけて取り組むという時間配分ができない。それを考慮して、課題を出すタイミングや案内があると良いかもしれないし、課題を含めた時間管理能力を習得させるような働きかけも必要かもしれない。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域連携協働支援論	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護の発展に位置付けられる必修科目である。「地域で生活する人々」をキーワードとし、自らの生活に着眼できることを目標としている。 昨年と同様、自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージするような課題を提供し、講義を行った。また、今年度は、家族へインタビューを行い、生活者としての話を聞いたうえで地域での生活上の課題を考察するという課題を追加した。毎回の講義での学びや質問を記載してもらい、次の時間にその説明を加えるようにし、学生の気づきや疑問を表出しやすいようにした。また、これまで習得した知識や現在進行している講義との関連なども意識することができるように講義を行った。 講義の中で地域・看護・認知症・高齢者・障害者などのキーワードでのトピックスなどを交えて提供し、地域で生活する人々への幅広い視点を持てるように行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、74.3点であり、昨年より、やや下がっているが、標準的なレベルに到達していると考えられる。理想レベルに達したものは38%で昨年より減少している。 目標別にみると、知識理解の平均点は65.2点、思考・判断については81.5点、関心・意欲については66点であった。思考判断については十分に習得できた。しかし、知識理解や関心・意欲について、地域で生活する人々を身近なものとして捉え、そこから看護の役割を見出すことが難しかったのではない。そのため、今後は事例や具体例の検討をさらに個人では理解が難しいようであれば、グループワークなどを取り入れていく必要がある。 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価は全項目において、概ね達成したと回答した学生が多かった。 前期試験、授業評価アンケートからも、本科目の教育目標はある程度達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科科目のうち「看護の発展」に位置付けられており、必修科目である。専門科目のベースとなり、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.1)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(4.0)であった。これまでに学んできた知識を生かす、また、今後学んでいく内容とも関連性について学習意欲への促しにつながったのではないかと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価ではほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。しかし、コミュニケーションや表現力を高める、職業倫理や職業選択では「まったくそうでない」と答えた学生もいた。地域包括ケアは病院の中だけではない看護の役割にも言及するため、学生のイメージがつきにくいことも考えられた。そのため、今後も講義の中ではできるだけ、具体例をあげ、学生がイメージしやすいように話をし、興味や関心を持ってもらう工夫を行っていく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的に講義内容として学生には概ね伝わり、概ね達成できた。しかし、思考判断以外の面では、次年度その内容を検討していく必要がある。特に、授業評価の中で「試験をする意味が分からない」と記載している学生もあり、どのような知識が必要なのか？暗記だけではないことを伝えていく必要があり、授業の概要や課題について理解ができないまま行うことがないように毎回説明していく必要があると考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域生活支援論	3	前期	必修	いいえ	110

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、必修科目である。2年次に学ぶ「地域連携協働支援論」に次ぐ科目であり、地域で生活するあらゆるライフステージにある人々の健康を支えるための知識・ケアを学ぶ科目である。そのため、これまでに学んだ各領域の概論や方法論をベースにし、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中で看護師の役割などを講義した。講義内容は様々な領域にわたるため、身近な具体例を用いながら関心を持ってもらうようにした。昨年と同じく、講義終了後には出席カードにより、学びや質問を確認し、次の講義の際に説明を行った。また、後半の講義で「障害者・高齢者・医療的ケア児」を地域で支えるネットワークを考え、発表する時間を設け、共有した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	前期試験の平均点は73点であり標準的なレベルに到達していると考えられる。理想レベルに達したものは26%であった。 評価別にみると、知識理解に関する平均点は72点、思考・判断については70点、意欲関心については65点、態度では60点であった。知識理解、思考判断については概ね到達できたと考えられるが、意欲関心、態度の到達度に課題が残る。 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からみると、3.6から4.1の平均値である、自分なりの目標を到達したやコミュニケーションや表現力を高めることができたの平均点が低い。インターネットを利用した学生が90%を超えているが、図書館の利用が少なかった。シラバスを参考にした学生が70%いることから、計画的な学習につながっていたのではないと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科科目のうち「看護の発展」に位置付けられており、専門科目のベースとなり、必修科目である。学生も一定の成績を修めており、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.1)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(3.9)であり、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価ではほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は3.9～4.1であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。課題以外の学習はほとんどの学生が行っていないが、毎回の課題をきちんと提出しており、課題によって復習や調べることもつながっていた。今年度は、対面での講義であり、時々課題について学生同士で検討を行うことができた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体的に講義内容としては学生に概ね伝わり、達成できたのではないかと考える。しかし、課題以外に「何をしたいのかわからない」という自由記載があったが、図書館、インターネットなどをほとんどの学生が利用しており、課題を行うに当たっては学習を行っているとする。また、日々の学びには、自分のこと、家族のこととして捉えている学生も多く、当事者としての意識を持っていることはうかがえた。今年度は、課題を発表し、共有する場を設けた。次年度は、発表する学生を増やしていくことも検討する。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	中原 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
緩和・がん看護学	3	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目で看護の発展、地域包括ケアに位置づけられる科目であり、既修のさまざまな科目を基盤にしている。あらゆる発達段階、地域のさまざまな場で病気とともに生きているすべての人々を対象に、がん看護、緩和ケア、終末期看護という独自の知識・思考を新たに学ぶ科目である。 がん看護においては、入院治療のみならず、地域で生活や仕事と治療を両立しているがんサバイバーを取り巻く状況を具体的に挙げながら、地域包括ケアの視点もふまえて看護方法について解説した。また、3年次後期からの実習でも活用できるよう、臨床での事例や最新の治療、具体的な看護方法などを組み込みながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解が深まるよう解説した。関心を高める働きかけとして、関連するトピックニュース・新聞記事・医療ドラマなどの話題の紹介なども行った。本年から、がんサバイバーの実際の声（大規模調査のデータ）を題材としたディスカッションも取り入れ、学生間で意見を共有する機会も設けた。それにより、自分の身内のがんサバイバーの実情を共有したり、身近な人の闘病から感じたことを共有する場となり、患者理解の促進や相互の学びとなっていた。また、講義終了時に学びや質問、感想を自由に記述してもらい、次の講義時に応答するようにして前回講義内容の理解の促進および関心を維持できるように努めた。 緩和ケア、終末期看護については「死」は誰にでも訪れる身近なものであることを解説し、人生観や死生観が深まるように努めた。小児の緩和ケアについても専門性をふまえて具体的に解説し、実際の事例紹介やドキュメンタリー動画の視聴などを通してより具体的に理解できるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.2点、最高93点、89名（105名中、84.8%）が標準的レベルに到達している。そのうち理想的レベル（80点以上）に達した者は52名（105名中、49.5%）であった。再試験対象者は1名で、最終的には全員が合格した。 DP別の達成度は、【DP1】83.7%、【DP2】75.9%、【DP3】75.9%である。 到達度自己評価では、ほとんどの項目において学生は肯定的な評価であり、平均値は4.07であった。 なかでも「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.2点、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において的確に判断する力を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」の項目では4.1点であり、本科目のねらいとしている思考・判断のために必要な“考える力”や、専門職としての姿勢について修得し、意欲的に学ぶ姿が読み取れる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、専門教育科目のなかの看護の発展、地域包括ケアに位置づけられる科目であり、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本、応用をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は18名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 評価点、DP別達成度、学生の到達度自己評価、および本科目の行動目標も達成していることから、内容は妥当であると考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	15回講義のうち、予習・復習を1度も行っていない学生がそれぞれ30%（昨年度は予習を1度も行っていないものが42%、復習については37%）程度いた。その理由としては「他の科目の課題が多く時間的余裕がなかった」という意見が目立ち、例年と同様の傾向が見られた。 一方、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生は38.6%（昨年度43.2%）であった。学習内容としては、気になったことや興味のあることを図書やインターネットで調べたり、関連する本・映画・YouTubeを観たり、まとめノートを作成したりなど、課題以外の学習に自主的に取り組んでいた。また、図書館利用は39%、学術データベースの利用については30%とそれほど多くはないものの、インターネットは86%が利用していた。本科目では、毎回の学び、いくつかの小レポート課題を課しており、関心のあることや文献を調べる自己学修の促進に多少は繋がったのではないかと考える。ただ、まだその割合は十分とも言えず、今後も引き続き関心を高め、自主的な学修を促進できるように働きかけを行っていく。 授業の質評価では、ほとんどの平均値が4.0～4.2（平均点4.07）と概ね肯定的であった。しかし、「技術を身につけることができた」は3.9、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は3.8と低めであり、必要な知識は教授したが実際に演習していないことが要因ではないかと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、専門教育科目のなかの看護の発展、地域包括ケアに位置づけられている。科目の目標は概ね良好に達成できた。思考・判断は本科目の重点DPでもあり、教授方法、評価方法ともに今後もさらなる検討を重ねていく。主体的学習を促す働きかけや、教授方法、評価方法については今後もさらなる検討を重ねていきたい。また、本年から新たに取入れたディスカッションについても、患者理解の促進のために、さらに効果的に運営できるよう改善を重ねたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護キャリア形成論	2	前期	必修	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学「キャリア開発」（必修）に続き、看護のキャリア教育に係る2年前期の必修科目として配置されている。毎年、殆どの学生が受講動機には「必修科目である」（98.6%）を挙げる。他は「関心のある内容である」（19.2%）、「単位数を確保する」（17.8%）「資格取得に必要である」（15.1%）、少数だが「GPAをあげる」（11.0%）、「友達が履修している」（1.4%）を挙げる者もいる。これに加え、今年は「就職活動の参考になる」を受講動機とした学生がいた。意欲関心（DP3）や態度（DP4）面に主眼を置く当該科目の主旨を考えると、看護の「仕事理解」や自己の看護職としての将来の道への関心の高まりに繋がる学生の意識の変化として注目したい。 授業は、看護のキャリアプランニングに必要な知識・考え方の整理として、①職業としての「看護」への理解<職業理解>を深めること、②看護を目指す者としての自分自身への理解<自己理解>を深めること、③仕事に対する考え方や夢・希望<キャリア指向性>を明らかにし、看護職としての自身の将来について考えること、④看護専門職としての自身の将来像を具体的にイメージすること、最終的に⑤目標達成に向けて自身の課題を明確化したうえで、学生個々が自らのキャリアライフプランを作成することを目標に、対面での授業(1単位、8回)を実施した。授業は、講義以外に学生間のグループディスカッション(以下、GDと略)や口頭発表の機会を積極的に取り入れながら進行了。第4回目の授業には、本学看護学科卒業生4名（①東南アジアを中心に外国人対象の看護師教育に携わっている者、②6年間の精神科看護師としての臨床看護経験を経た後、本学看護学科精神看護学分野の教員として2年目を迎えた者、③専門職大学院修了後、助産師・アドバンス助産師としての臨床経験を重ねた後、本学助産別科で教員として助産師教育に携わっている者、④看護師としての臨床看護経験、行政保健師としての地域保健活動を経験した後、企業内健康保険センターで産業保健師として活躍中の者）を外部講師として招聘し、パネルディスカッションを行った。授業最終日には、各グループの学生間で選抜された代表者16名による「私のキャリアプラン」発表の場を設け、全8回の授業を修了した。 本授業を通して、学生一人ひとりが看護職としての自らの将来を具体的にイメージすること、自己の目標や現状での課題を明確化することにより看護への興味・関心を深められること、今後の学習への関心意欲の向上や看護者としての望ましい態度の育成に繋げること、それにより各個人の職業アイデンティティの確立を促すことを目標としている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された			達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当該科目の評価は、課題レポート(50%)、発表(口頭、プレゼンテーション：10%)、レポート外の提出物（20%）および「その他」として、日ごろの授業への取り組み（積極的・主体的学習姿勢・態度、GDへの参加度／貢献度、出席状況など：20%）により、総合的に評価した。評価点のクラス平均は78.9±8.58点（最高98点、最低0点）で、成績分布の内訳は、標準レベル以上の学生が84/96名、87.5%、うち理想レベルに達した者は45/96名、46.9%で、その割合は昨年度を上回っていた。残り11/96名、11.5%が「可」レベルで、昨年度より多かった。このうちの2名については、いずれも①レポート提出期限が守れない、②レポート自体の評価点が低い、③日常的な学習参加度/貢献度が低いなど、学修姿勢そのものに課題があった。この他、8回の授業全てを欠席し、総合評価0点で「不可」となった学生も1名いた。 学生による授業評価アンケートにおいては、到達度自己評価として「自分なりに目標を達成した」を「かなりそうだと思う」とした者が43.8%、「わりにそうだと思う」が39.7%で、全体の83.5%を占めていた。「まあまあそうだと思う」の13.7%を加えると、アンケートに回答した学生73名中71名が「達成できた」と自己評価していた。一方、到達度自己評価の全項目について「全くそうでないと思う」とした学生が2名おり、その理由が気になるところである。総合的にみた成績評価は、秀12名(12.5%)、優33名(34.4%)、良39名(40.6%)、可11名(11.5%)であった。 以上の結果より、当該科目における教育目標は、【意欲・関心】「達成された」、【態度】「達成された」、全体を通して「達成された」と判断した。					

5、DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本授業は看護学科カリキュラム上「看護キャリア形成と看護実践」に配置された科目である。授業では、職業としての「看護」を選択し看護学科で2年目を迎えた学生を対象に、「看護」を職業とする自らの生き方を含めたキャリアデザインをどう描くかについて考える機会をもつことで、学生個々の看護キャリア形成に繋げることを目的とした。2年次の学生が主体的・積極的に学ぶための本授業での工夫としては、教育方法としてのAL(GD、意見発表、プレゼンテーション、パネルディスカッション等)を積極的に取り入れ、教員はファシリテーター役割に徹することを心がけた。結果として、授業評価アンケートの到達度自己評価において、学生は「職業選択の参考になった」(4.5/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(4.5/5.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(4.4/5.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3/5.0)、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)と評価しており、学部・学科のそれを概ね上回っていた。また、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2/4.0)とも評価しており、以上の結果から、授業内容は、CP、カリキュラムマップ上の位置づけに対応した妥当性のある内容であったと考える。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 シラバスに記載した【関心意欲】【態度】に係る行動目標について、授業評価アンケートでは、「職業選択の参考になった」(4.5/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.5/5.0)、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.4/5.0)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3/5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2/4.0)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0)と平均して評価は高かった。全体として、当該科目で「学生が達成すべき行動目標」についても、学生は「自分なりの目標を達成した」(4.2/4.0)と評価しており、DP、行動目標から見ての内容妥当性も確保できたと考える。
6、授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様、授業は「GD」を中心に展開した。調べ学習等、事前課題を課す科目ではないが、学修準備を整えるうえで、「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」学生が全体の8割(82.2%)を占めていた。また、「あらかじめ授業の計画を立てた」者も半数以上(53.4%)おり、例年と比較し、学生の関心の高さを窺わせた。 学習量の評価(授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由)については、「授業資料と授業中の課題に取り組むことで十分理解できた(9)」との意見の一方で、「することがなかった/必要ないと思った(5)」「他の科目で手一杯/他の科目の課題で忙しい/他の授業の課題があり時間の確保ができない(14)」「課題の他に何をしたらよいかわからなかった(5)」など、例年同様の回答も多かった。 学習量の評価(授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習)では、授業を通して「将来のこと/看護師という職業/自分のなりたいもの/興味を抱いた仕事/キャリアについて、インターネットを利用して自主的に調べた/今までよりも深く調べた(12)」「今自分に必要なものは何か、自分の将来について見つめ直した、自分と向き合った、自分のやりたいことを紙に書き出した(5)」「自分がどんなキャリアを築いていきたいかをより深く考えるために/自分のビジョンを正確に描けるように/自分に合った職業選択ができるように、色々な看護職の動画をみたり、先輩看護師のコメントを検索したり、様々な価値観に触れた(3)」「保健師の説明会に参加した(1)」など、自己理解や仕事理解、啓発的経験に繋げ、看護職としての自身の将来を深く考えたり、見つめ直したと、自身の取り組みを詳細かつ具体的に記述している学生が多くいた。「性格診断/性格分析に取り組んだ(2)」と回答した学生もあり、学生が本授業を自身の看護キャリアについて自主的・主体的に考えるきっかけとして、これまで以上に活用してくれていたのではないかと感じている。結果として、看護キャリア形成に向けた学生個々の【関心意欲】【態度】の向上にも繋がったと考える。 授業の質評価について、5項目の内訳は、(1)「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らであった」(4.6/5.0)、(2)「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.6/5.0)、(3)「説明は理解しやすいものであった」(4.6/5.0)、(4)「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.7/5.0)、(5)「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.5/5.0)で、全項目、学部・学科のそれを上回る評価であった。 本授業を通して、学生個々に看護職としての未来を描かせること、自身のキャリアビジョンを語らせること、さらに各自のキャリアライフプランに繋げることの3点を大切に考え授業を構成・展開してきた。その進め方や方向性は妥当であったと考えている。学習効果としても、昨年度よりは①学生の「自己理解」を促し、②「看護」への興味・関心、「仕事」としての看護への理解を深め、③学生自らの意思で「職業」を選択し、現段階での④キャリアライフプランに繋げることはできたと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業評価アンケートより、学生は「職業選択の参考になった」(4.5/5.0), 「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.5/5.0), 「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.4/5.0), 「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.4/5.0), 「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.3/5.0), 「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1/4.0), 「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2/4.0), 「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)について学ぶことができた」(4.1/4.0)と評価し、全体を通して「自分なりの目標を達成した」(4.2/4.0)としていた。授業の質評価においても「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.7/5.0), 「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.6/5.0), 「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.6/5.0), 「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.5/5.0), 「説明は理解しやすいものであった」(4.6/5.0), と高い評価を得ており、また、受講後の学生の自由記述にも前向きな意見が多く見られていた。 本授業の到達度自己評価を「自分なりに目標を達成した」とした学生のうち, 「かなりそうだと思う」(43.8%), 「わりにそうだと思う」(39.7%)が全体の83.5%を占め, 「まあまあそうだと思う」(13.7%)を合わせると, 授業評価アンケートに回答した学生73名中71名(97.2%)が, 当該科目で達成すべき学習目標を「達成できた」としていた。 以上の結果をふまえて, 当該科目で「学生が達成すべき行動目標」【関心・意欲】【態度】は, 全体を通して「達成された」と判断した。
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ウィメンズヘルス	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	各教員が、リプロダクティブヘルス/ライツに関するテーマで講義をし、学生は事前学習・事後学習を行うことで、女性の健康を様々な視点から深く捉え、リプロダクティブヘルス/ライツから見た女性の健康に関する課題について自己の考えを述べることを目標に授業を展開した。教員は学生が事前学習・事後学習しやすいようにシラバスに事前学習・事後学習の学習内容を載せた。成績はレポート90点、発表10点として評価した。昨年からの授業の展開方法を担当教員間で検討し、現在の形を実践しているが、学習効果は挙げたと判断する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点91.5点であった。80点以上が100 %であった。DPの位置づけ、カリキュラムマップ、シラバスに示した配点に従い採点した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、カリキュラムポリシー、カリキュラムマップにおける位置づけから内容的に妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の狙い通り、学生は授業と事前学習・自己学習で可能な範囲内で積極的に調べ、発表会でも自分の学習を基に積極的に質問したり、プレゼンで意見を述べていた。目標は達成できたと評価する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度の方法で学習効果があったので、次年度以降もこの形態で授業を展開する予定である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護マネジメント論	4	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現在の社会情勢より、限られた時間の中で質の高い看護を提供していくためには効果的効率的なマネジメントが不可欠であり、看護学生も就職と同時にマネジメント能力が求められる。そのため組織マネジメントの基礎的知識の理解が必要であり、2年次の総論ではこの視点を軸に授業は構成している。4年生のこの看護マネジメント論は、基本的には看護管理をさらに学びたい、学ぶ必要があると考えている学生であり、履修学生はこの学びを活用して総合実習では看護管理実習を行う。このため受講動機は「教員に勧められた（60%）」の他に「必修科目」「関心のある科目」が抽出されたと思われる。集中講義を行うにあたっては全学生が集中講義に参加できるように事前にクラスルームを介して学生とスケジュール調整を行い、各論実習期間中でもあるため土曜の補講を活用して2日間で集中講義を行った。授業内容に関しては、2年次の授業の復習から開始し、その後日本が抱える医療や社会保障の問題、病院組織とは何かやその役割、そして病院の中での看護の役割と求められる成果へと講義内容を進めて理解しやすい流れとしている。また学生が実習を行う2施設の実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「入退院支援室」を題材にして、看護マネジメントをより具体的に考えることができるよう、実習に役立つ構成にした。また履修学生はCOVID-19の影響で臨地実習の経験が非常に乏しい学生である。このような状況で「質の高い看護を提供するためのマネジメント」を考えるのは困難であると考え、まずは「マンダラチャート」を使用し具体的に「質の高い看護」の構成要素を考える方法を取り入れて授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の達成度評価は、筆記試験（60%）、小論文（30%）、その他：授業貢献度（10%）で総合的に評価した。達成度自己評価は、この集中講義に該当する項目の平均値は4.0以上あり、特に「（4）自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は平均値4.6、中央値5.0と高い達成度であった。筆記試験は60点中の平均点は46.5±6.3点、レポートは30点中24.9点で1名以外は全員25点以上の評価となり、双方とも昨年度よりも上昇していた。最終総合成績の平均値も80.3±10.2（最高97点、最低60点）と昨年度よりも高い結果となった。成績の内訳は、秀1名(10%)、優6名(60%)、良2名(20%)、可1名(10%)と、全体的に昨年度より優が増え、可が減少していた。また図書館等の活用もほとんどの学生が活用してりレポート課題に取り組んでいる。以上より知識理解、思考判断、意欲関心は達成されたと判断した。また学生はレポート提出等の期限遵守や、授業への参加に関しては全員まじめに取り組んでいたため態度に関しても問題はなかったと思われる。このような状況から全体を通して達成されたの評価に至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、各論実習で患者・看護師間の看護を学んだ後に、次は2者間の関係から組織という広い視野で看護を見直し、この学びを活用して看護総合実習を計画実践していくという点においては、4年生前期開催は適切な位置付けであると考ええる。学習内容においても、国家試験の出題基準に則り、また学生が看護師1年目として業務を遂行するうえで、必要となるマネジメント過程や社会資源、組織化の重要性等の基礎的知識を網羅しながら、CPに準じて保健・医療・福祉の総合的視野に立ち、関連職種との連携・協働能力を育成する授業構成としているので内容的妥当性もあると考える。学生の自己評価も、「(4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「(2)知識を確認、修正したり新たに得ることができた」「(3)事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の項目は特に高かったことから成人学習としての集中講義という視点では妥当だと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、(1)～(5)項目の全てにおいて、平均値は3.8～4.2、中央値は全て4.0であり、授業の質の確保はできたと考える。前述したように、この授業の履修者は看護総合実習で看護管理を選択した学生であるため、この授業の基礎的知識をもとに、各ゼミで総合実習に向けての学びを継続し、授業知識の利活用はできていたと思われる。ただ筆記試験においては定期試験時期以外に時間を設け実施したが、COVID-19の影響で2名が追試験となった。本来なら追試験時期に行う必要があったが、追試験時期は看護総合実習終了直後となるため、実習でのリアルな学びが試験にも影響し全体の平等性にかけるという判断で教務課との協議とご協力のもと特別に別日で行わせていただいた。しかし今後もこのような状況が出現する可能性は否めないため、次年度以降は評価方法の再検討が必要と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	選択科目であるが、この学びをもとに看護総合実習の企画や実践へと継続していくため、学生は授業に真摯に積極的に取り組んでいたと考える。またマンガラチャートを活用して、何をもって「質の高い看護」「質の高い医療安全」「質の高い入退院調整」となるのかを具体的に思考していく過程においては、当大学で学んだ様々な既習の知識を想起するきっかけとなり、「医療・看護の質」を具体的に思考できたことは効果的であったと考える。この学びによって病院実習においても見学の視点が定まり、医療従事者とも専門性の高いコミュニケーションが実践できていた。到達度自己評価において「(4)自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」が最も高い達成度であったことは成人学習者としての進歩と考える。最終成績も前年度よりも高い結果となり、学生からの否定的意見はなく、自己評価、質評価とも中央値は4.0であったため、授業は相対的に学生にとって、実りあるものであったと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	鹿毛 美香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疫学	2	前期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科専門教科科目のうち「看護を学ぶための基礎」として置かれている「保健統計学」既習後に受講する。また、「公衆衛生看護学関係科目」でもあり、看護専門科目としては選択科目であるが、保健師課程では必修科目である。そのため、保健師として必要な疫学の基礎知識の習得とその理解が求められる。今年度は、遠隔授業14コマで構成され、1年次の「保健統計学」と連動させ展開している。 学生の受講動機は、「単位数確保」が55.1.0%，ついで「資格取得に必要」が51.0%，「関心ある内容」が30.6%であり、保健師課程希望者以外の学生にとっては「単位数確保」が受講動機の多くを占めていることが示された。そのため、保健師の活動事例だけでなく、看護師でも活用する具体的な例示を演習課題とする等を試みた。 この科目は、演習科目として学生が思考を深めることにも重点を置いているため、演習課題を基本個人ワークとして取り組むようにしたが、個人ワークでは困難な課題と予測されるものについては、小グループワークを取り入れ、学生の思考を促した。また、毎回授業後に「学びの内容と質問」自由記載させ、個々の学修状況を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.19(±10.33)点であり、追試対象者は2名、再試対象者は1名であった。GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は68.5%，成績「良」レベルが22.2%で、概ね優秀な成績を収めている。 DPの目標別達成率として、DP1「知識・理解」80.3%、DP2「思考・判断」73.1%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に学習の中で得た知識を活用し、応用していくことが必要であるが、その点の習得が十分ではなかったことが示された。加えて、「学生の到達度自己評価」においてコミュニケーション力を高め、話し合いや自分の意見をまとめる時間が授業時間に少ないと回答している学生が数名いることから、グループワークの内容や頻度について次年度の課題と捉え、検討していきたい。 しかし、学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は、概ねこの科目の目標に達成していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「単位数確保」または公衆衛生看護関係科目として「資格取得」に必要であると認識し、学生は受講している。授業内容としては、「保健統計学」を既習しているため教科書および内容を連動させ進行している。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると平均値は80点を超え、DP1「知識・理解」の到達率は80%, DP2「思考・判断」の到達率は73%を達しているため、内容的には妥当であると考えるが、DP2「思考・判断」の到達率を更に向上させる工夫をグループワーク等の内容とともに検討したい。 ③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「到達度自己評価」の平均値は3.8～4.3, 中央値はすべての項目で4.0であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」で4.3, もっとも低い項目は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3.8であった。 学生による「授業の質評価」の平均値は4.2～4.3, 中央値は半数以上が5.0と高い値であり、低値でも4.0であった。しかし、その中で平均値, 中央値ともに低い項目は「授業中に、自分の意見をまとめる, 話し合う, 発表するなど, 学生が参加する機会が作られていた」であった。 学生の「到達度自己評価」, 学生による「授業の質評価」の平均値が低い項目をみると, 「コミュニケーション力や表現力を高める」, 「話し合う, 発表する」というグループワークなどの活動の不足が考えられる。次年度は個人ワークとグループワークなどの活動を適宜組み入れることを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、看護専門科目の選択科目でありながら、保健師課程の必修科目でもある。基本的な知識の獲得については達成できたが、思考判断の面では課題を残した。この点は、自身を含めた公衆衛生看護学関係科目担当教員と共有し、指導を継続する予定である。 授業を振り返ると、全体的成績としては、概ね目標に達成する成績を修めているが、思考判断力の獲得についてグループワークなどの活動時間をできる限り確保し、改善を図りたい。また、学生へのオリエンテーションにて事前課題の取り組み方など学生自身が準備状況を整えられるようシラバス説明をより丁寧に行いたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	公衆衛生看護関係科目群において公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。 授業では、学生は、保健師が行う保健指導等の公衆衛生看護技術提供場面をイメージしにくく、特に、集団や組織を対象とした支援技術についての理解度は弱い。そこで、基本的な知識及び理論を教授し、その後、保健師活動での支援方法と技術の実際については外部講師との十分な打ち合わせを行い、できるだけ実践現場に近い題材を取り入れて授業を行うことを大切にしている。受講動機をみると、「資格取得に必要である」は63.0%(47.7%)と最も多く、前年度に最も多かった「単位数を確保する」40.7%より多かった。次いで「関心のある科目である」46.2%と続いた。 自己学習課題について、「他科目の課題との両立が大変」などの自由記載がみられたため、授業計画時に学生への課題提示から提出までの期間を考慮して課題を提示し改善した。※()は前年度割合。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	客観評価『成績』の平均値は69.3点（77.9点）であった。分布：90点以上（11.1%）、80～89点6名（16.7%）、70～79点（22.2%）、60～69点（30.6%）、59点以下（19.4%）。 再試験の結果、履修者全員が目標を達成した。観点別評価の達成度（客観的）の到達度は、DP1：74.8%、DP2：65.0%、DP3：82.3%、DP4：85.4%であった。 学生の『学習到達度の自己評価』の平均点は、「自分なりの目標を達成した」3.9、「知識を確認、修正したり、新たに獲得することができた」4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」4.0、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」3.9、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」3.9、「職業選択の参考になった」4.2であった。 『学修のための情報利用』は、「この授業の履修する際にシラバスの記載を参考にした」60.0%、「あらかじめ授業の計画をたてた」51.9%であった。また、シラバスを活用してあるいは教員のオリエンテーションを受けて授業を受ける計画を立案したのは4割程度であった。 『図書館の利用状況』は、「インターネットの利用」の利用者が最も多く、85.2%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、公衆衛生看護関係科目群に位置づけられており、看護師課程科目では基礎看護学及び各看護学領域の概論が開講されている。今年度は履修登録数は昨年度より減少した。受講動機では、昨年度に最も多かった「単位取得のため」よりも、「（保健師）資格取得に必要である」、「関心のある内容である」の項目が上回っていた。保健師課程の選択を検討している学生の受講割合が多かったと推測された。客観評価では前年度とほぼ到達度は同程度であり、全項目ともにほぼ達成されていた。『学習到達度の自己評価』から、新たな知識や技術を獲得したと概ね回答していた。以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおいて本科目の位置づけは内容的に妥当であると評価した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業形態は対面形式であった。 『授業の質の評価』では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」4.3、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.4、「説明は理解しやすいものであった」4.0、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」4.0であった。 今年度は対面授業ですべて進め、昨年度に評価点がもっとも引くかった「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」を改善するために、授業中に短時間で事例検討やロールプレイングなどを意識して取り入れた。また、健康教育の企画を取り入れた。その結果、39⇒43へ改善した。授業への自由記載の内容は、「関心のある授業だったので、難しかったですが、楽しく受けることができました。」であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講動機の傾向が変わり、「資格取得のため」「関心のある」が「単位取得のため」より多かった。関心の高い学生が選択しており、授業中に実施したミニ演習への参加状況も良好であった。客観評価では、最終成績平均は前年度より下がったが、その要因は最終科目試験欠席者2名の影響であり、全体の到達度は昨年度同様であった。学生の到達度自己評価では、授業の質評価では『授業中に、自分の意見をまとめ話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が与えられていた。』が最も高く、前年度から改善が見られた。授業中に短時間で事例検討やロールプレイングなどを意識して取り入れた。また、健康教育の企画を取り入れたことが影響したと推測する。授業以外の課題学習については、図書館の図書、雑誌、学術データベース、インターネットなどの活用が増えていたことや、授業の質評価について「課題の評価基準が明確である」「期間内に行う範囲や課題の提示は明らかである」では得点が高かったことから、自己学習課題の方法を丁寧に提示することによって、学生は自己学習を進めることができたと考えられるため継続する。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護学科「看護実践の基盤」として1年次の「公衆衛生看護学概論」既習後に受講する。また、「公衆衛生看護学関係科目」のひとつであり、学校保健と産業保健を学ぶ科目である。この科目は、看護専門科目としては選択科目であるが、保健師国家試験受験資格取得を目指す学生にとっては必修科目である。そのため、保健師国家試験受験資格取得希望者にとって必要な学校保健と産業保健の基礎知識の習得とその理解が求められる。この科目は今年度8コマで構成され、2人の教員がこの講義を担当した。各担当授業について、事前に担当教員で評価を含め授業の進行を確認し実施した。昨年度と同様、学生の「思考を深める」という点に配慮した。 学生の受講動機は、「資格取得に必要」が64.3%、ついで「単位数確保」が45.2%、「関心ある内容」が38.1%、であった。これからみると学生の受講動機は、「資格取得」や「単位数確保」に必要ということで受講し、「関心ある内容」で受講する学生は4割という傾向がみられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な学生の成績は、平均値81.4(±5.5)、再試対象者無しという結果であった。GPAの理想的レベル（成績「優」・「秀」レベルとする）に到達した学生は67.4%、成績「良」レベルが30.2%で、概ね優秀な成績を収めている。 DPの目標別達成率として、DP1「知識・理解」75.7%、DP2「思考・判断」84.4%、DP3「意欲・関心」97.%、DP4「態度」98.1%であった。昨年度より、DP2「思考・判断」は、昨年度から若干向上している。DPの到達レベルを80%とすれば、DP1の「知識・理解」は若干到達していない。 学生の成績およびDPの目標別達成率からみると、学生は、概ねこの科目の目標に達成していると考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、公衆衛生看護関係科目として、多くの学生は、「資格取得」や「単位数確保」に必要であると認識し受講している。授業内容としては、「公衆衛生学看護学概論」を既習後ということで授業内容を確認しながら進行している。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え る。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみるとDP1「知識・理解」の平均値が8割に達していないが、DP2「思考・判断」は若干改善がなされているため、内容的には妥当である と考える。 ③まとめ 以上、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「到達度自己評価」の平均値は3.5～4.4であった。「学生の到達度自己評価」の平均点でもっとも高い項目は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.2、もっとも低い項目は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の3.5であった。 学生による「授業の質評価」の平均値が3.8～4.4であった。学生による「授業の質評価」の平均点でもっとも高い項目は「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」で4.2、低い項目は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」3.8であった。 学生の「到達度自己評価」、学生による「授業の質評価」の平均点の低い項目は、「コミュニケーション力や表現力を高める」、「話し合う、発表する」というグループワークなどの活動の不足と考える。感染予防の観点から話し合い活動の設定が困難な点も影響していると考えられる。 シラバスを学生の79%が参考にし、57%が計画して講義を受けていた。学生のほとんどが「配布資料」に記録していた。1回も30分程度の事前学習を実施していないと答えた学生が21%いたが、実際は、事前学習を提出したり、事後の課題を提出しているため、学生の認識とは異なる点がみられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護専門科目の選択科目であるが、保健師国家試験受験資格取得希望者にとっては必修科目でもある。学生は、この科目を「資格取得」や「単位取得」という理由で受講していて、「関心ある内容」として受講していない状況もみられた。授業を振り返ると、全体的成績としては、概ね目標に達成する成績を修めている。昨年度の「思考を深める」といった科目の課題は、改善の傾向がみられた。 「関心ある内容」として履修登録をしていない学生に対し、興味関心を抱かせるように授業内容の工夫や検討を試みたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政と政策	3	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、3年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目となっている。受講動機には「資格取得に必要である」が73.7%、「関心のある内容である」が47.4%となっている。受講生には保健師課程選択のための資格取得と主目的となっているが、科目内容に関心を持っている学生もいることが考えられる。 ②科目内容は、既習した保健医療福祉の知識を基盤に、行政の施策及び政策の策定まで学習する内容となっているため、現存する日本における制度を具体的な事例を通して、思考する構成としているため、課題及び個々の学生とのやり取りにより主体的学習をすため、ワークシートを活用した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、85.8点、再試対象者は0名であった。96.3%が理想的レベルに達した。 目標別にみると、知識理解は84.6%、思考判断は83.7%、関心意欲は99.6%であった。 到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.3であった。 自由記述欄には、教員との課題のやり取りについての一定の成果がうかがえるコメントや具体的事象による授業展開に行政施策の理解が深まった等のコメントが書かれていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護関係科目」の選択科目である。3年生前期となっているため、保健師課程を選択している学生と、単位取得のためという動機の学生がいる。そのため、いずれの学生も科目の内容を学習する中で、学習意欲をいかに引き出すか授業方法の検討を行った。結果、最終的な成績評価からは、99.6%が理想的レベルに達していることから内容的には妥当であると考ええる。 ②DP行動目標からみての内容的妥当性 知識理解、思考判断及び意欲関心に位置付けられた科目である。知識理解は84.6%、思考判断は83.7%、関心意欲は99.6%の学生が達成していることから概ね内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、『わりにそう思う』と『かなりそうだと思う』を合わせると、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」100%、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」、「説明は理解しやすいものであった」、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が84.2%であった。 この結果から、意図した主体的学習を促すための教育方法については、一定の成果を上げたと評価できる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 授業の工夫により、学生との双方向コミュニケーションは、一定の成果を上げたと考える。今後もこれらの状況を踏まえ、更なる授業方法の工夫を検討していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護活動演習	4	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	公衆衛生看護関係科目群において、公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。例年、学生からは「保健師の業務の実際はイメージがわからない。」という声をきくこともある。特に、地域での健康教育や地域組織活動といった集団や組織を対象とした公衆衛生看護技術については、理解度が弱い。そこで、基本的な知識及び理論を教授し、その後に実際の保健師活動でどのように援助を行っていくのかについては外部講師との十分な打ち合わせを行った。また、効果的なDVD教材を選定し利用するなど準備を行った。受講動機をみると「資格取得に必要である」100%、「関心のある内容である」13.3%（46.2%）「単位数を確保する」6.7%（63.1%）であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	客観評価では、成績の平均値は83.0点（77.6）で前年度より増加した。観点別評価の達成度（客観的）に見ると、DP2-1(70.8%)、DP3-2(98.8%)、DP4-1(100.0%)、DP4-3(95.3%)であった。 「学習到達度の自己評価」では、『自分なりの目標を達成した』3.8(3.9)、『知識を確認、修正したり、新たに得ることができた』4.5(4.2)、『事象を理解する視点や考えたを得ることができた』4.3(4.1)、『自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた』4.4(4.1)、『自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた』4.1(4.1)、『自分が学ぼうとしている専門分野についての的確に判断する力を得ることができた』4.3(4.0)、『『自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた』3.9(4.0)、『『自分が学ぼうとしている専門分野について必要となる技術を身に付けることができた』4.0(4.0)、『コミュニケーション力や表現力を高めることができた。』4.1(3.6)、『職業倫理や行動規範について学ぶことができた』4.1(3.9)、『職業選択の参考になった』4.5(4.1)であった。 「学習量の評価」は、学生は全員、予習復習を行っていた。 「情報利用」では、シラバスを確認しないまま科目選択していた者は20%(30%)であった。 「図書館、インターネットの利用」では全員が情報検索を行い学習していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のための受講である。「学習到達度の評価」では、『自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた』4.4、『知識を確認、修正したり、新たに得ることができた』4.5の結果から、知識を実習地域の分析に生かし、新たな知識を得ながら思考する力がついたと認識することができていた。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 観点別評価の達成度（客観的）に見ると、DP2-1(70.8%)、DP3-2(98.8%)、DP4-1(100.0%)、DP4-3(95.3%)であった。成績評価では思考判断に関する達成度は前年度とほぼ変わらなかった。 以上より、DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけからみた内容的な妥当性に問題はない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は対面形式によって進めた。 「授業の質の評価」では、『授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた』4.6 (4.5), 『口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた』4.3(4.8)、『期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった』3.7(4.4)、『テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった』3.7(4.0)、『説明は理解しやすいものであった』3.7(4.1)であった。 毎年度、自己学習、グループ学習課題に関する学習量はかなりの時間を要しているため、毎回、次の授業までの課題を学生と話し合い、学生が進行管理を行えるよう計画的に進めるように心掛けた。 自由記載『看護とは違う考え方でも細かく説明されたので学びが多かった。』、『グループメンバーによってグループワークの参加意欲が違い、グループワークの進捗が困難だった。先生によって指示されていることや試験前対策の有無の違いがあり、公平ではないと感じました。統一してほしい。』との意見があり、来年度の授業計画を検討する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	客観評価における学習到達度は、ほぼ全員が到達した。理想レベルの到達状況は前年度と同様であった。 学生の到達度自己評価及び授業の質評価の平均はいずれも前年度とほぼ変わらなかった。授業以外の課題学習については、図書館の図書、雑誌、学術データベース、インターネットなどの活用が増えていた。今後の課題は、学生の目標到達意識の向上である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康相談	3	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、看護専門科目としては選択科目であるが、養護教諭一種免許状資格取得希望学生にとっては必修科目である。学生の受講動機は「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」が100%、「必修科目である」が66.7%であった。学生のこの科目に対する認識は、資格取得に必要な科目というだけでなく関心も高い傾向がみられる。 3年前期科目であり、看護および教職の授業の基礎的な学習については習得している。授業は、既習知識についての理解を確認しながら授業内容を考慮し進めている。講義での学びが、学生に定着していくよう事後の課題を作成した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.7（±10.08）であり、再試対象者はいなかった。GPA「秀」「優」に達したものが42%いた。 DP目標別達成度でみるとDP1「知識・理解」に関しては77.6%、DP2「思考・判断」に関しては74.2%、DP4「態度」75.7%であった。 学生の「学習到達度の自己評価」に関する項目の平均値は3.0～4.3であった。 学生の「授業の質評価」は、平均値4.7～5.0であった。 学生は配布資料を記録に活用していた。学生の「学習量の評価」としては、1回30分以上の事前学習と事後学習を取り組んでいないと回答している学生がいるが、課題を学生は提出している。その点からみると、事前学習と事後学習を自発的学習のみとして認識し回答している可能性がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップからの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、看護課程「専門教育科目」であり、教職課程の養護教諭一種免許状取得のためには必須科目である。2年次までの科目内容を考慮し構成されているため、概ね妥当であるとする。 ② DP, 行動目標からのみての内容的妥当性 DP1の「知識・理解」は、到達度を80%とすれば、やや到達していない状況がみられる。学生の「授業の質評価」は平均値4.7～5.0で、学生の「学習到達度の自己評価」に関する項目の平均値は3.0～4.3で、学生自身の到達度は高いとはいえない傾向がみられる。 ③ まとめ 学生による「授業の質評価」は低いとはいえない点から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、「授業の質の評価」に比べると、学生自身の「到達度自己評価」が低い傾向がみられる。学生自身の到達度目標が高いといったことが影響していることも考えられる。この講義は、演習などを含め、学生が振り返る自己評価の場面を多くとりいれている。学生の行った自己評価についてのフィードバック方法として、評価の過程で到達している点について伝えていくなど工夫を図りたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、看護専門科目の選択科目および養護教諭一種免許状資格取得希望学生には必修科目である。GPA「秀」「優」に達したものが42%いるが、最終成績は75.7（±10.08）と個人差が影響していることが考えられる。学生の「授業の質の評価」と学生自身の「到達度自己評価」に差がみられる点については、結果のみでなく過程を含め到達している点について伝えていくなど工夫を図りたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護技術論演習	1	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護技術論演習は、看護実践の基本となる「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」、「コミュニケーション技術」、「記録・報告」からなる必修科目である。受講動機は、全員が必修科目であるためと答えており、他の動機として、資格取得に必要なである（38.6%）、関心のある内容である（23.9%）だった。学生を取り巻く環境としては、①入学して初めて看護について学び始めること、②コロナ禍での対面授業であることから、感染対策に注意しながらも、講義時には発問をして自分の意見を述べる時間や演習で学生間のコミュニケーションをとりながら実施できるよう配慮した。また、初回講義時に、看護用語について学習するきっかけを作り、「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」、「コミュニケーション技術」、「記録・報告」と段階的に学修を組み立て、ベッドメイキングの実技試験を取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、筆記試験60%、レポート外の提出物20%、その他20%で評価した。その他は実技試験である。 到達度自己評価（1）～（10）の中央値は4.0～5.0、平均値は4.2～4.6で推移しており、授業の質評価では、中央値5.0、平均値4.4～4.6で推移していた。これは、学生からみると授業は一定の質を担保しており、自分自身も一定の意欲をもって学習に臨むことができたことを示している。実際の最終成績は、平均86.7点±6.28点で、秀-32名（36.0%）、優-45名（50.6%）、良-11名（12.4%）、可-1名（1.1%）であり、学生の評価との乖離は少ないと考えている。要因の一つとして、学生自身の学習量評価にある「自発的学習として授業課題以外での学習の取り組み」について、81.8%の学生が取り組んだと回答しており、①わからない看護用語を自分で調べる、②自分で要点を整理する、③自宅や空きコマを使って実技のコツをつかむ、練習するといった学習を自ら行っていた。また、実習室での学生の自己練習に、担当領域の助教助手の効果的な指導があったことも学生の学修の動機づけの一助となったと捉えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の看護実践の基盤に位置付けられている必修科目である。1年前期科目で大学入学時から看護を学び始める科目であるため、どのように学習への動機づけを高めるかも併せて重要になる。結果、①最終的な成績評価からは98.9%の学生が理想的レベルに達していること、②学生の授業評価からは81.8%の学生が課題以外での学習の取り組みを行ったと答えていることから、内容的には妥当だったと考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 知識・理解75%、思考・判断15%、態度10%で構成している。成績評価から目標は達成できたと考えている。知識理解については、おおむね達成できたと考えているが、数名の学生が6割に満たない筆記試験の結果だった。全体を通しての成績をみて内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的に妥当性には問題はないと考え、来年度も授業構成は継続してよいと判断している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業ガイダンスで、本科目で学ぶ学修目標やDPとの関連、内容、評価について説明した。また、「看護技術の意義」の概要説明と同時に、実習室のオリエンテーションを行い、学生の動機づけにつなげた。 単元進捗としては、「感染予防技術」/「ボディメカニクス」、「体位保持」/「環境調整技術」の講義を行い、必要な知識を押さえたうえで、看護学実習室での演習を実施した。演習内容は、「感染予防技術」として衛生的手洗いと個人防護用具の取扱いを行い、「ボディメカニクス」として水平移動と体位変換、体位保持を実施した。その後の「環境調整技術」の演習では、ベッドメイキング/シーツ交換、環境整備を実施した。事前に看護技術動画教材を視聴してイメージ化を図り、演習当日は、全員が積極的に実施できるよう部分的に技術のポイントを解説し、個別の質問に指導を行った。その際、教員がやって見せながら学生の技術との違いを説明するよう努めた。 授業の質評価について、5段階評価の中央値はいずれも5.0であり、評価平均は4.4～4.6だった。 学生自身の授業課題以外での学習に取り組んだ学生は、回答者88名中72名（81.8%）と積極的だったことがうかがえる。内容としては、①わからない用語を自分で調べる、②自分なりに資料を集めたり整理をする、③看護技術の自己練習を実習室で行う他、自宅で工夫をして行う、イメージ化のための動画視聴などであった。 これら学生の割合が増えるような促しを今後も継続して行っていきたい。 図書館利用については、半数以上が活用できていない現状があり、図書館ガイダンスや文献検索などの学びを本科目でも取り入れられるよう検討する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護学を学ぶ初期の科目の位置づけから、総括的評価として、学生が到達する目標は達成できたと考える。 今後も、感染予防に留意しながら実習室での自己学習の促しと個別の技術指導を行っていく。その他、視聴覚教材の活用、要点整理の機会提供、図書の活用を促しながら学習効果を高めていくことが今後の課題である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教職の歴史的変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。 ②90点以上2名、80点以上90点未満6名、70点以上80点未満2名、全体の平均点は84.6点であった。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性については問題ない考える。 ②DPについて 教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①声がこもりがちの上にマスクをしているので、学生に聞き取りづらいという感想が多かったのは大いに反省している。できるだけゆっくり話すことを心がけたい。 ②授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、前半と後半で学生の態度に違いがあった。やはりグループワークを取り入れ具体例を考察した後半が反応がよかった。 ②次年度からは、自らの課題と感ずることが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	多様性と人権が守られる幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価の根拠は例年のごとく定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスで提示した学生が達成すべき目標の4点、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業後の振り返りシートの内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上を獲得した学生は7名中3名だった。また、到達度自己評価においては、すべての項目で学科平均値と同等以上だった。特に、（4）（6）（9）（10）に関しては非常に高評価だった。したがって、DP1～DP4共に目標を「達成した」と判断し、他は「やや達成」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、学校や家庭・地域の実態や児童生徒の傾向性を考慮して指導に当たる養護教諭をめざす学生にとって、学校経営や教科横断的な健康教育と密接につながっている特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容は非常に重要である。したがって、学生には専門分野に限らず学校全体や教職全般への関心を持ち続けることが求められる。そのような意味から、学生の自己評価での項目（9）「職業倫理や行動規範」（10）「職業選択の参考」が非常に高い評価だったことは教職課程における内容としての妥当性は高いと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料を活用しながら授業を進めたことは、授業の質評価項目の（3）「説明の理解しやすさ」の評価にも繋がっていると思われるし、自由記述欄において「説明がわかりやすく、毎回内容が濃かった。」「特別活動とは何かが理解できた。」「動画などのデータから、教員になりたい気持ちが高まった。」などといった感想もあることから、今後もその点に関しては継続していきたい。 「授業の質評価」項目の（5）は学科平均と同等だったが、毎回の授業の振り返りを着眼点ごとに分類整理し、それにコメントを加えて次の授業の冒頭で共有する時間を設定していたことによる一つの成果なのではないかと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	将来、養護教諭をめざす学生であるため、特別活動においては健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 次年度も、特別活動及び総合的な学習の時間の本質を的確に理解できるようにするとともに、教職課程の授業として、教職への意欲の喚起し、より実践的な資質能力態度が向上するように、一単位時間の授業展開に関してもさらなる工夫改善に努めていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別支援教育論	3	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科の教育内容の特性上、障害をもたらす疾患について知識があることを前提に、教育現場の中で特別な教育的ニーズのある児童について、また関わった経験がない学生の理解を深めることを念頭に置いて授業を展開した。8コマ授業であるため、通常の15コマ用に編集されたテキストをすべて解説することは困難であり教員が作成したパワーポイント資料その他の資料を用いて授業を実施した。テキストは予習・復習用に利用するように学生に指導した。また、適宜参考文献等を紹介した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	テストの結果から学習内容の理解は概ね達成できたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	概ね妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	8コマ授業のため、ややもすると学生の理解を深める教授が不十分になりがちであるため、テキストのみならず副読本等の文献紹介とそれへのアクセスを期待したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	8コマの授業で可能な限りの特別支援教育についての理解を促すように努め概ね達成できたと考えられるが、学生がさらに現代の教育に関心を持って学習を深めることを期待したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教育方法の歴史的変遷、学習指導要領の変遷などの基礎的知識理解を深める部分と、教育方法の理論にしたがったさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③具体的な実践について、学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。 ④グループワークの実践的力をつけるために、主にKJ法を用いた演習を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。 ②80点以上90点未満6名、70点以上80点未満1名、全体の平均点は83.1点であった。サンプルが7名なので平均点の評価はできないが、とびぬけた学生がいないことが残念である。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、3年生の場合これまでの2年間がオンライン授業中心であったことから対面での授業を嬉々として楽しんでいる雰囲気があった。しかし一部には、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ないと考ええる。 ②DPについて 教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①声がこもりがちの上にマスクをしているので、学生に聞き取りづらいという感想が多かったのは大いに反省している。できるだけゆっくり話すことを心がけたい。 ②授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。とりわけ、事前のレポートの添削指導を「不公平」だという認識には、不満である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①2年時に履修した科目に引き続き、教職に関する専門科目としてはかなり専門的内容を含んだものである。これまでの学生自身の教育・学習体験を相対化、理論化できるようにとのねらいから取り組んだグループワークによる具体例の検証は、学生の反応がよかった。やはり「教育方法」という科目は、それ自身が教育実践として学生に提示されてしかるべきものであると改めて認識した。 ②次年度からは、授業を通して学生自らの課題と向き合うことが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○2021年度 全体平均81.3、看護学科平均80.4、秀25.0%、優50.0%、良16.7%、可0.0%、不可8.3% 標準偏差13.14 ○2022年度 全体平均77.8、看護学科平均87.0、秀60.0%、優40.0%、良0.0%、可0.0%、不可0.03% 標準偏差6.00 ○全体平均より10点程度高く、秀と優のみという非常に良い結果であった。昨年度と比較しても秀の割合がかなり高くなっている。 ○指導案の内容も工夫やオリジナリティの点で優れたものが見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は十分満足できるレベルにある。 ○次年度は各自が自分自身の伝えたい道德テーマを指導案の形で表現できるよう、内容や方法を改善したい。今年度は動画の授業実践の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	看護学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生になり全員が資格取得を目指すわけではないが、厳しい職業と言われている教員を目指す学生の目的意識が非常に高い学生がそろっていたと推察される。 ②授業については、基本的な教育法規や生徒指導に関する知識を学習させた。特に最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守り・保護種対応を実際の事例を検討する授業を展開させた。 ③さらに重視した点は授業のまとめを書かせる習慣をつけさせ、そのことが論文を書くことの苦手意識をなくす、更には自分の考えを論文にまとめることができるように指導を行った結果、最終試験である論文が非常にレベルの高いものとなった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績は80点以上であり、理想レベルを大幅に上回る結果となった。 ②目標別にみるとすべての項目で「かなり」「わりに」「まあまあ」で100%であり、すべてが肯定的回答となった。教職の免許取得に意欲的である学生がそろったことを踏まえると、授業が非常に前向きに進められたことから、すべての項目において目標に達したと考えられる。 ③昨年度の反省から授業形態についてはグループ学習を多く取り入れる予定であったが、今年度もコロナの関係上グループ討議を行うことができなかった事は残念であったが、授業の中で個々の学生からの発言を多く求め学生も積極的に発言をすることができたことは、学生からの担当教員への意見を見ると好意的であり、目標を達成できたと考える。 ④「学習準備性」はほとんど行われていない現状は学生のアンケートによると「授業の中で十分に理解できる」との内容であったが、アンケートの声で多かった声は「他の科目での課題の多さ」について書かれているものが多かった。 ⑤ほとんどの結果で肯定的回答を得られたことは、学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか学習できたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより、対応や指導を学ぶことができる授業であり妥当性があるものと思われる。 ②「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。 ③自由記述では学生が教員を目指すにあたり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する学生の一助になったと考えることができた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においてもすべて肯定的回答であり、事例を取り上げて検討する機会を多く作ったこと、また担当教員が実際の学校現場で対応してきた実例を示しながら授業を進めた結果と考えられる。 学生の意見としては、「授業内で理解できた」「授業の説明だけで十分理解することが出来たから」との回答であった。 できれば様々な意見を聞けることのできるグループ学習を来年度取り入れられるとより授業が充実すると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合評価として、概ね良好であった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子ども達の成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じることができた。 課題としてはやはり主体的に学生が授業に参加できる授業づくりができるように努力して参りたい。